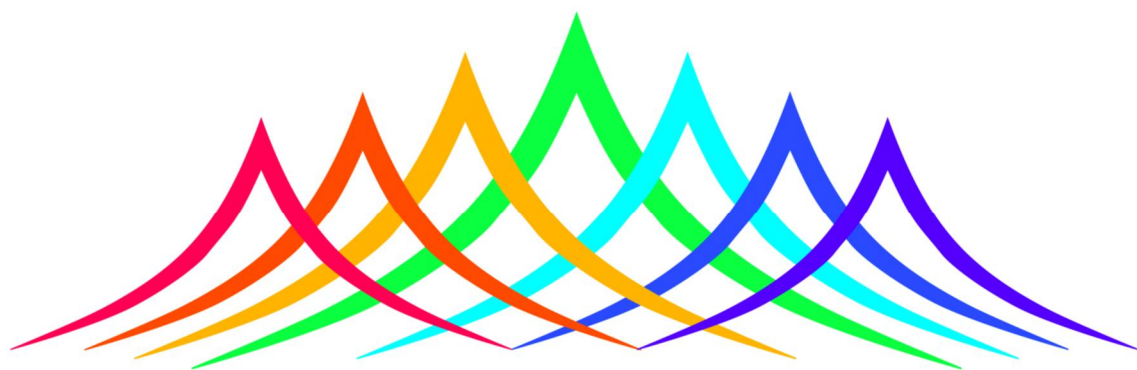


消 防 年 報

(令和 7 年版)

北アルプス遊・交・学



北アルプス広域消防本部

一 目 統 計



構成市町村	面 積(㎢)	人 口(人)	世帯数(世帯)
大 町 市	565.15	25,152	12,020
池 田 町	40.16	9,061	4,092
松 川 村	47.07	9,641	4,149
白 馬 村	189.36	8,739	4,450
小 谷 村	267.91	2,621	1,279
計	1,109.65	55,214	25,990

署 数

1 本部
1 課
1 室
3 消防署



職員数

実員 95 人
実働 88 人

予算

11 億 0325 万 2000 円



消防団員数

大町市 457 人
池田町 202 人
松川村 200 人
白馬村 249 人
小谷村 208 人



消防車両数

ポンプ車	4 台	高規格救急車	6 台	多目的支援車	1 台	はしご車	1 台
救助工作車	1 台	資機材搬送車	1 台	多目的積載車	2 台	指令車	3 台
査察広報車	4 台	連絡車	1 台	多目的連絡車	2 台		

管内各施設数



防火対象物数 3,662 件

危険物施設数 824 件



119 番通報受付件数

7,105 件

(災害件数とは異なります)



内訳
火災 23 件、救急 3,819 件
救助 48 件、災害以外
その他 173 件 3,042 件

火災件数 23 件

内訳

建物火災 14 件
車両火災 1 件
林野火災 1 件
その他火災 7 件



出火原因

・こんろ 4 件
・たき火・火入れ 各 3 件
・ストーブ・取灰 各 2 件
・その他 7 件・不明調査中 2 件



救急件数 ・ 搬送人員

3,927 件 3,763 人

主な救急件数

急 病 2,327 件
一般負傷 788 件
交通事故 205 件



救助件数 48 件

出動内訳
交通事故 25 件
建物事故 6 件
機械事故 2 件
そ の 他 15 件



は　　じ　　め　　に

この年報は、令和7年4月1日現在の大北地域における消防力の現況と、令和6年度の消防業務の概要等を収録したもので、消防行政運営の参考に資するとともに、消防事情を一般に紹介するために編成したものです。

表紙に使われているシンボルマークは、北アルプス連峰のイメージを基本とし、「人」の文字は、構成市町村の人々が一体となって地域社会の発展を目指していこうという強い意志の表現であり、「北アルプス遊・交・学」は、北アルプスを舞台に、そこに住む人々と訪れる人々が楽しみ、交流し、学び合う地域づくりを目指すことを表現しています。

ご高覧の上、消防に対するご理解をいただくとともに、防火防災意識の高揚の一助となれば幸甚に存じます。

令和7年7月

北アルプス広域消防本部

目 次

一 般 概 要

- 1 地勢、位置及び人口等……………1
- 2 沿 革……………2
- 3 災害記録……………9

消 防 情 勢

- 1 北アルプス広域連合組織機構……………17
- 2 消防本部・署組織機構……………17
- 3 消防本部・署の事務分掌……………18
- 4 消防職員の状況……………21
- 5 職員研修状況……………22
- 6 相互応援協定……………22
- 7 令和6年度常備消防費予算額……………23
- 8 一世帯当たり及び住民一人当たり
の常備消防費……………23
- 9 令和7年度市町村別
常備消防費負担金……………23

消 防 施 設

- 1 消防庁舎の現況……………24
- 2 消防通信の現況……………25
- 3 消防用資機材一覧……………28
- 4 現有消防水利……………31

火 災 統 計

- 1 市町村別火災発生状況……………32
- 2 月別火災発生状況……………33
- 3 出火原因別件数……………33
- 4 市町村別火災件数（過去5年）……………34

救急・救助統計

- 1 月別署別救急出動状況……………35
- 2 種別市町村別出動状況……………36
- 3 事故種別搬送人員……………37
- 4 出動状況（過去10年）……………37
- 5 救助活動状況……………38

予 防 統 計

- 1 建築同意件数……………39
- 2 立入検査件数……………40
- 3 防火対象物定期点検……………42
- 4 防火管理講習実施状況……………42
- 5 危険物事務の状況……………43
- 6 火薬類譲渡・譲受・消費許可件数……………43
- 7 広報活動等実施状況……………44
- 8 各種届出事務処理状況……………44
- 9 中高層建築物の状況……………45

消 防 団 関 係

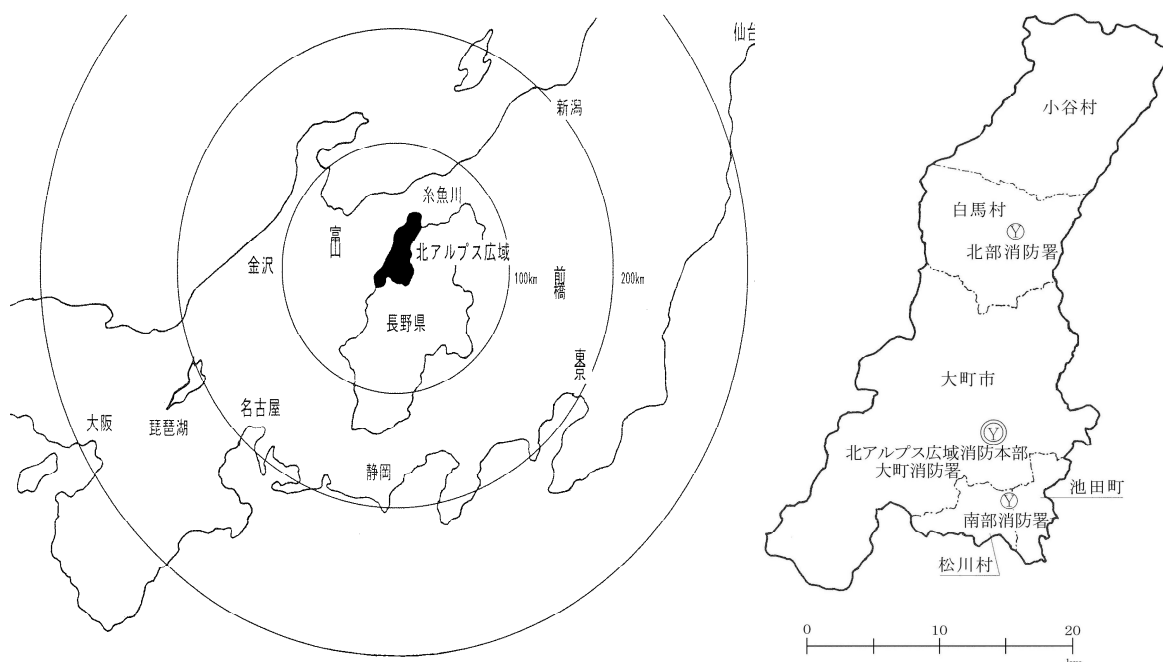
- 1 沿 革……………46
- 2 組織機構……………51
- 3 階級別配置状況……………54
- 4 年齢別構成……………54
- 5 在職年数別構成……………55
- 6 施設の現況……………55

参 考

- 1 外郭団体等……………56
- 2 歴代消防長等……………58

一 般 概 要

1 地勢、位置及び人口等



本域は、長野県の北西部に位置し、西に中部山岳国立公園の急峻な北アルプス連峰が連なり、北東に妙高戸隠連山国立公園の妙高高原、東に比較的平坦な山並みが続く、東西約24キロメートル、南北約59キロメートル、総面積1,109.65平方キロメートルの地域です。

長野県は日本の屋根ともいわれていますが、とりわけ本域は標高が高く、3,180メートルの槍ヶ岳を最高点とする北アルプス連峰には3,000メートル級の名峰が連なっています。対照的に最低点は、新潟県境の姫川岸で170メートルと、起伏に富んだ地形を形成しています。

北アルプスを水源とする豊富な水は、佐野坂を分水界として、北は姫川水系、南は信濃川水系(高瀬川)に分かれ、肥沃な扇状地を形成しています。また、仁科三湖をはじめ、低地、山地ともに湖沼や湿原が数多く点在し、豊かな緑を育み、四季の変化に富んだ美しい自然環境に恵まれた地域です。

本域は、南北に長く地形が複雑なことから、気候の地域差が顕著ですが、全般に夏は冷涼でさわやか、冬は寒さが厳しく、特に北部は全国有数の豪雪地帯となっています。また、昼夜及び夏冬の気温較差が大きく、内陸性気候の特徴を示しています。

(R7.4.1現在)

区分 市町村別	面積(km ²)	人口(人)	世帯数(戸)
大町市	565.15	25,152	12,020
池田町	40.16	9,061	4,092
松川村	47.07	9,641	4,149
白馬村	189.36	8,739	4,450
小谷村	267.91	2,621	1,279
計	1,109.65	55,214	25,990

(各市町村の人口及び世帯数の数値は、住民基本台帳による。)

2 沿 革

- 昭和40年 4月 大町市が常備消防設置の政令指定市となり、消防本部及び消防署を設置し、職員19名、消防ポンプ自動車1台、指令車1台の装備で発足する。
- 8月 消防庁舎を総工費847万円で竣工する。
- 昭和43年 6月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台の寄贈を受ける。
自治体消防発足20周年記念第3回大北消防大会が実施される。
- 昭和44年 9月 大町市が救急業務実施指定市となり、救急業務を開始する。
- 昭和46年 6月 消防職員を2名増員し、総数21名となる。
- 8月 大北管内の大町市、池田町、松川村、八坂村、美麻村、白馬村及び小谷村の1市1町5村により大北地域広域市町村圏事務組合が発足する。
- 昭和47年 2月 水槽付消防ポンプ自動車を配備する。
- 3月 大北広域市町村圏計画が策定され、その事業の一環として大北広域常備消防の設置が計画される。
- 4月 消防職員を1名増員し、総数22名となる。
- 6月 長野県総合防災訓練が大町市高瀬川観音橋付近を主会場に関係機関25団体約1,800名参加のもとに開催される。
- 昭和48年 5月 消防職員を2名増員し、総数24名となる。
- 昭和49年 4月 消防職員を2名増員し、総数26名となる。
大町市の荒井孝次氏から新型救急車購入資金200万円の寄贈を受ける。
- 昭和50年 4月 消防職員を3名増員し、総数29名となる。
日本損害保険協会から救急車1台の寄贈を受ける。
- 5月 1月1日発生した青木湖バス転落事故の捜索活動に対し、知事表彰を受ける。
- 7月 常備消防発足10周年記念式典を実施する。
- 昭和51年 3月 北安曇郡内の町村と救急業務応援について協定を締結する。
- 昭和53年 7月 自治体消防発足30周年記念第4回大北消防大会が実施される。
- 昭和54年 4月 消防職員を3名増員し、総数32名となる。
- 9月 地震発生を想定し、「防災の日」に地域住民参加の総合防災訓練を実施する。
- 昭和57年10月 大北広域常備消防の設置について、管内市町村で具体的な検討を開始する。
- 11月 消防ポンプ自動車を更新する。
- 昭和58年 3月 大町市消防本部及び大町市消防団が消防庁長官表彰旗を受賞する。
- 4月 消防職員を1名増員し、総数33名となる。
- 5月 自治体消防発足35周年記念・消防庁長官表彰旗受賞記念大町市消防観閲式を実施する。
- 昭和59年 3月 長野県共済農業協同組合連合会から救急車1台の寄贈を受ける。

- 4月 救急医療情報システムの運用が開始される。
池田町、松川村、八坂村、美麻村、白馬村及び小谷村が消防本部・消防署設置の政令指定を受ける。
- 5月 大北広域常備消防の発足に向けて、消防職員23名を採用する。
- 昭和60年 3月 大北広域消防署北部分署庁舎を白馬村に総事業費5,862万円で竣工する。
29日に北部分署竣工式を兼ね大北広域常備消防発足式を挙げる。
白馬村ロータリークラブから査察広報車1台の寄贈を受ける。
- 4月 1日大北地域広域市町村圏事務組合が発足するとともに、広域常備消防が発足する。これに伴い大町市消防職員32名が広域組合に派遣されるとともに、大北広域消防職員10名を採用する。同日大北広域消防は、1本部、1署、1分署の組織で、職員65名、消防ポンプ自動車2台、水槽付消防ポンプ自動車2台、救急車3台、査察広報車3台、資材運搬車1台、指令車1台の装備で発足する。
- 6月 糸魚川地域消防事務組合と「消防相互応援協定」を締結する。
- 7月 査察広報車2台を購入し、消防本部に配備する。
- 10月 大北広域消防発足観閲式を挙行し、併せて新調した消防本部旗を披露する。
- 12月 北部分署へ指令台を導入配備する。
- 昭和61年 2月 特定防火対象物に交付する「消防用設備等適合の証」を北部分署において初交付する。
- 4月 消防職員14名を採用し、総数79名となる。
- 7月 富山県朝日町と「消防相互応援協定」を締結する。
- 12月 大北広域消防署南部分署庁舎を松川村に総事業費7,376万円で竣工する。
4WD救急車を購入し、北部分署に配備する。
- 昭和62年 1月 大北広域消防署南部分署が業務開始となる。
- 3月 日本損害保険協会から救急車1台の寄贈を受け、大町消防署に配備する。
北部分署の救助訓練塔が総事業費350万円で竣工する。
- 4月 消防職員8名を採用し、総数85名となる。
- 8月 査察広報車を購入し、大町消防署に配備する。
- 10月 積載車を購入し、北部分署に配備する。
- 12月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、大町消防署に配備する。
南安曇郡消防組合と「広域消防相互応援協定」を締結する。
- 昭和63年 4月 消防同報無線設備を設置し、運用を開始する。
- 8月 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、南部分署に配備する。
北部分署の査察広報車を更新する。
自治体消防発足40周年記念第5回大北消防大会が実施される。

- 10月 4WD救急車を購入し、大町消防署に配備する。
- 平成元年 3月 大北広域消防本部・大町消防署庁舎が総事業費38,331万円で竣工し、20日から新庁舎で業務を開始する。
- 長野県共済農業協同組合連合会から4WD救急車1台の寄贈を受け、北部分署に配備する。
- 4月 組織機構改革を行い、南北分署が南部消防署、北部消防署となり、消防本部に課制が導入される。
- 隊員22名で救助隊が発足する。
- 5月 大北地区中部ブロック消防連絡協議会が発足する。
- 10月 積載車を購入し、南部消防署に配備する。
- 11月 照明装置付き救助工作車を購入し、大町消防署に配備する。
- 平成 2年 3月 北部消防署の車庫を総事業費1,596万円で増築する。
- 8月 広域消防発足5周年併せて常備消防発足25周年記念消防観閲式を実施する。
- 北部消防署の査察広報車を更新する。
- 12月 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、北部消防署に配備する。
- 平成 3年 4月 大北地区南部消防連絡協議会が発足する。
- 8月 第20回全国消防救助技術大会ロープブリッジ渡過（個人種目）に出場し、第5位に入賞する。（於大阪市）
- 平成 4年 8月 油圧救助器具を購入し、北部消防署に配備する。
- 9月 消防本部の指令車を更新する。
- 11月 照明装置2台を購入し、北部消防署及び南部消防署に配備する。
- 平成 5年 3月 長野県共済農業協同組合連合会から4WD救急車1台の寄贈を受け、北部消防署に配備する。
- 5月 大北地区北部消防連絡協議会が発足する。
- 平成 6年 6月 白馬ロータリークラブから指令車1台の寄贈を受け、北部消防署に配備する。
- 9月 「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」に基づく応急手当普及員講習を実施し、44名の普及員を認定する。
- 平成 7年 1月 阪神・淡路大震災被災地へ消防救援隊6名、救助工作車、指令車を派遣する。
- 3月 日本損害保険協会から高規格救急車1台の寄贈を受け、大町消防署に配備する。
- 4月 救急救命士による高度化救急業務の運用を開始する。
- 5月 第33回長野県総合防災訓練が大町市運動公園を主会場に、関係機関55団体約2万人参加のもとに開催される。
- 阪神・淡路大震災被災地の消防応援活動に対し、消防庁長官感謝状を受ける。
- 6月 広域消防発足10周年併せて常備消防発足30周年記念消防観閲式を実施する。
- 12月 高規格救急車を購入し、北部消防署に配備する。

- 平成 8年 2月 アルペンスキー1996 F I S ワールドカップ白馬大会が開催され、消防警備、救急救護にあたる。
南部消防署の査察広報車を更新する。
- 3月 連絡車を購入し、大町消防署に配備する。
- 4月 大北地域広域市町村圏事務組合が北アルプス広域行政組合に改名される。
消防職員を 2 名採用し、総数86名となる。
大北緊急消防援助隊を結隊し、22名を任命する。
- 8月 第25回全国消防救助技術大会ロープブリッジ救出（団体種目）に出場し、第 7 位に入賞する。（於札幌市）
- 11月 大町消防署の査察広報車を更新する。
- 平成 9年 1月 アルペンスキー、ジャンプ、ノルディック1997 F I S ワールドカップ白馬大会が開催され、消防警備、救急救護にあたる。
- 4月 大北広域消防本部が北アルプス広域消防本部に改名される。
消防職員を 2 名採用し、総数88名となる。
「12.6 蒲原沢土石流災害」捜索活動に対し、消防庁長官感謝状を受ける。
- 5月 「12.6 蒲原沢土石流災害」捜索活動に対し、知事表彰を受ける。
- 7月 「12.6 蒲原沢土石流災害」捜索活動に対し、建設大臣感謝状及び消防庁長官表彰を受ける。
- 9月 「12.6 蒲原沢土石流災害」捜索活動に対し、内閣総理大臣表彰を受ける。
- 12月 はしご付き消防自動車（30m級）を購入し、大町消防署に配備する。
- 平成10年 2月 長野オリンピック冬季競技大会が 7 日から22日まで開催され、ジャンプ、アルペン、ノルディックの白馬村競技会場で延べ513名が消防警備、救急救護にあたる。
- 3月 長野パラリンピック冬季競技大会が 5 日から14日まで開催され、ノルディックの白馬村競技会場で延べ182名が消防警備、救急救護にあたる。
- 9月 自治体消防発足50周年記念第 6 回大北消防大会が実施される。
- 平成11年 3月 長野県共済農業協同組合連合会から 2 B型救急車 1 台の寄贈を受け、南部消防署に配備する。
- 平成12年 2月 北アルプス広域連合が発足する。
- 4月 長野市と救急応援業務に関し「消防相互応援協定」を締結する。
- 10月 高規格救急車を購入し、南部消防署に配備する。
- 12月 聴覚障害者の緊急ファックス通信の運用を開始する。
- 平成13年 1月 大町消防署の消防ポンプ自動車を更新する。
- 8月 南部消防署の指令車を更新する。
- 9月 小谷村の相澤喜久子氏から高規格救急車 1 台の寄贈を受け、北部消防署に配備する。

- 12月 多目的積載車を購入し、北部消防署に配備する。
- 平成14年 3月 松本市本郷地区で発生した大規模山林火災に長野県消防相互応援協定に基づき隊員12名、消防車両3台を派遣する。
- 12月 北部消防署を総事業費2,835万円で増改築する。
南部消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
- 平成15年 2月 日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、大町消防署に配備する。
- 平成16年 7月 新潟県豪雨災害被災地及び福井県豪雨災害被災地に緊急消防援助隊延べ13名を派遣する。
- 10月 新潟県中越地震被災地に緊急消防援助隊延べ10名を派遣する。
高規格救急車を購入し、大町消防署に配備する。これによりすべての救急車が高規格救急車となる。
- 11月 新潟県中越地震被災地での緊急消防援助隊活動に対し、総務大臣感謝状及び消防庁長官表彰を受ける。
- 平成17年 2月 スペシャルオリンピックス冬季世界大会・長野が26日から3月5日まで開催され、クロスカントリースキーマの白馬会場で延べ28名が消防警備、救急救護にあたる。
- 4月 糸魚川地域消防事務組合が糸魚川市消防本部に改組されたことに伴い「消防相互応援協定」を再締結する。
- 9月 多目的支援車を購入し、大町消防署に配備する。
- 平成18年 1月 大町市、八坂村、美麻村が合併し、新市「大町市」となり、北アルプス広域連合の構成市町村が1市1町5村から1市1町3村となる。
- 7月 岡谷市湊地区土石流災害被災地に長野県消防相互応援協定に基づき延べ10名を派遣する。
富山県黒部市と「消防相互応援協定」を締結する。
- 平成19年 3月 北部消防署の救急5号車を更新する。
- 11月 大町消防署の救急2号車を更新する。
- 12月 木曽郡王滝村のスキー場で発生したゴンドラ停止事故に長野県消防相互応援協定に基づき5名を派遣する。
- 平成20年 1月 北部消防署の査察広報車を更新する。
- 10月 大町消防署の救助工作車を更新する。
- 平成22年 7月 大町消防署の指令車を更新する。
- 平成23年 3月 全国共済農業協同組合連合会長野県本部から高規格救急車1台の寄贈を受け、北部消防署に配備する。
東北地方太平洋沖地震被災地に緊急消防援助隊、延べ40名を派遣する。
- 平成23年11月 東日本大震災被災地での緊急消防援助隊活動に対し、総務大臣表彰を受ける。

- 平成24年 1月 南部消防署の救急4号車を更新する。
- 平成25年 2月 デジタル無線の運用を開始する。
- 3月 北部消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
- 4月 富山県黒部市、朝日町、入善町が、新川地区消防組合を組織したことに伴い「消防相互応援協定」を締結する。
- 6月 大町消防署の連絡車を更新する。
- 10月 公益財団法人長野県市町村振興協会から補助金を受け、資機材搬送用自動車を南部消防署に配備する。
- 平成26年 2月 資機材搬送車庫を6,224千円で南部署に建設する。
- 3月 高機能指令システムを導入し通信指令室の運用を開始する。
- 4月 消防職員を1名採用し、総数89名となる。
- 9月 北部消防署の指令車を更新する。
- 南部消防署の査察広報車を更新する。
- 御嶽山噴火災害被災地に長野県消防相互応援協定に基づき延べ77名を派遣する。
- 平成27年 1月 御嶽山噴火災害捜索活動に対し、知事表彰を受ける。
- 7月 御嶽山噴火災害被災地の再捜索に、長野県消防相互応援協定に基づき延べ30名を派遣する。
- 10月 御嶽山噴火災害再捜索活動に対し、知事表彰を受ける。
- 平成28年 3月 大町消防署の救急1号車を更新する。
- 10月 大町消防署の査察広報車を更新する。
- 平成29年 3月 長野県消防防災ヘリコプター「アルプス」が松本市鉢伏山に墜落したことに対し、長野県消防相互応援協定に基づき7名を派遣する。
- 4月 長野県消防防災ヘリコプター「アルプス」の墜落事故を受け、毎月5日を「安全確保のための再確認日」とする。
- 5月 松本市のキッセイ文化ホールにおいて、長野県・長野県消防長会主催の長野県消防防災航空隊殉職者合同追悼式が開催される。
- 11月 北部消防署の救急5号車を更新する。
- 平成30年 3月 松本市のホテルブエナビスタにおいて、長野県・長野県消防長会主催の長野県消防防災航空隊殉職者一周年合同追悼式が開催される。
- 南部消防署の指令車を更新する。
- 4月 北アルプス広域連合職員定数条例を改正し、消防職員の定数を97名とする。
- 平成31年 2月 長野県共済農業協同組合連合会から指令車1台の寄贈を受け、大町消防署に配備する。
- 3月 松本市のホテルブエナビスタにおいて、長野県・長野県消防長会主催の長野県消防防災航空隊殉職者二周年合同追悼式が開催される。

- 令和元年10月 台風19号災害地に長野県消防相互応援協定に基づき延べ40名を派遣する。
- 12月 北部消防署の査察広報車を更新する。
- 令和 2年 1月 台風19号災害救助活動に対し、知事表彰を受ける。
- 3月 県消防防災航空隊殉職者慰霊碑が、松本平広域公園信州スカイパークターミナルゾーンプロムナード広場に建立される。
- 10月 大町消防署の災害対応特殊はしご付消防自動車を更新する。
- 令和 3年 3月 富山県立山町と「消防相互応援協定」を締結する。
- 7月 静岡県熱海市伊豆山で発生した土石流災害に緊急消防援助隊、延べ20名を派遣する。
- 令和 4年 1月 大町消防署の消防ポンプ自動車を更新する。
- 2月 長野県共済農業協同組合連合会から広報車1台の寄贈を受け、大町消防署に配備する。
- 静岡県熱海市伊豆山土石流災害での緊急消防援助隊活動に対し、消防庁長官表彰を受ける。
- 3月 北部消防署の救急3号車を更新する。
- 9月 南部消防署の救急4号車を更新する。
- 11月 糸魚川市消防本部と消防相互応援協定に基づく覚書を締結する。
- 令和 5年10月 北アルプス広域連合職員定数条例を改正し、定年引上げに伴う時限措置として106名とする。
- 12月 3署の仮眠室個室化等工事が完了する。
- 令和6年 1月 能登半島地震被災地に緊急消防援助隊、延べ20名を派遣する。
- 2月 大町消防署の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
- 令和7年 1月 北部消防署の査察広報車を更新する。
- 3月 高機能消防指令センターを更新する。

3 災害記録

- 昭和40年 5月 8日 小谷村浦川で鉄砲水が発生し、浦川橋が流失する。
- 7月17日 小谷村で12日からの豪雨により各所に被害が続出し、国鉄大糸線の不通が長期化する。
- 10月 1日 大町市国鉄常盤駅前で住宅等7棟を焼失する大火が発生する。
- 昭和41年 2月25日 小谷村戸土地籍で地すべりが発生し、3戸居住不能となる。
- 3月 7日 小谷村南小谷北日道で地すべりが発生し、3戸居住不能となる。
- 4月14日 大町市若一王子神社の社務所及び県宝棟札4枚を焼失する。
- 12月14日 大町市平二ツ屋の神竜山大沢寺から出火し、庫裡、本堂、衆山門等4棟延べ2,280㎡を全焼する。(損害額17,834万円)
- 昭和42年 6月14日 大町市常盤嶽の峰で原因不明の山火事が発生する。峻険な山岳地帯でビート土壤が燃え、延べ7日間(146時間)燃え続け、降雨で自然鎮火する。
- 昭和43年 9月24日 大町市立大町小学校の第2校舎が焼失する。(損害額1,343万円)
- 昭和44年 1月 7日 大町市平扇沢の間組作業宿舎より出火し、豪雪のため消火活動に支障をきたし、1,253万円の損害を出す。
- 8月 9日 小谷村で集中豪雨による被害が続出、ツバクロ岩護岸が決壊し、清水～10日 山及び上雨中に地すべりが発生する。
- 8月11日 集中豪雨が安曇地方一体をおそい、大北中南部、穂高町等到大被害をもたらす。大町市においては葛温泉が流失し、高瀬溪谷に入っていた登山客を自衛隊のヘリコプターで救出するなど、未曾有の被害を出し被災額は20億円に達する。また、池田町の山間部(広津、陸郷)で道路決壊及び崩落、床下浸水98戸、被害は2,000万円におよぶ。松川村では被災家屋154戸、田畑の冠水150ha、高瀬川右岸及び細野地籍で堤防決壊崩壊8箇所、橋梁流失3橋、半壊など8橋に被害を出す。美麻村でも公共土木施設、農業用施設等のほか家屋浸水1戸等の被害を出す。災害名「8.11 集中豪雨災害」
- 昭和45年 2月21日 白馬村八方尾根スキー場で新雪表層雪崩が発生し、スキー客3人がのまれる。
- 4月21日 小谷村南小谷月岡で地すべりが発生し、非住家1棟全壊する。
- 7月17日 小谷村で豪雨のため来馬地籍姫川護岸が50m決壊する。
- 昭和46年 4月 2日 小谷村北小谷光明沢で鉄砲水が発生し、床上浸水3戸、非住家1戸全壊する。
- 4月 4日 小谷村南小谷小土山地区で大規模な地すべりの兆候があり、5世帯に

避難勧告をする。

- 7月16日 小谷村小土山で地すべりが発生し、姫川をせき止める。住宅非住家1棟全壊2戸、住宅半壊1戸、床上床下浸水12戸、その他非住家12棟が浸水する。
- 11月29日 小谷村南小谷の柳瀬及び杉山沢で鉄砲水が発生し、国鉄大糸線が不通となり、住宅2戸が小被害を受ける。
- 昭和47年 2月27日 小谷村中土栗本で地すべりが発生し、中谷西側線が54m決壊する。
- 3月20日 美麻村千見本村で火災が発生し、2戸全焼する。
- 4月 8日 八坂村小菅で林野火災が発生し、1名死亡、13a焼失する。
- 12月27日 小谷村中土外沢で地すべりが発生する。
- 昭和48年 5月27日 美麻村千見境ノ宮で火災が発生し、2戸全焼する。
- 昭和49年 1月19日 白馬村五竜遠見スキー場で雪崩が発生し、リフト及びテレキャビンが被害を受ける。(被害総額16,000万円)
- 1月30日 大町市常盤西山の八王子神社本殿、拝殿及び社務所を焼失する。(損害額1,397万円)
- 3月13日 小谷村柵池でホテル1,019㎡が全焼する。(損害額8,000万円)
- 3月22日 春一番の強風が吹き、瞬間最大風速24.5m/sに達し、大町市常盤清水で住宅半壊1戸をはじめ、市内各地に住宅屋根の破壊等42件の被害が出る。白馬村でも村内全域で強風が吹き、住宅等2戸全壊、6戸半壊する。(損害額1,300万円)
- 4月 5日 松川村大和田神社の神殿、拝殿及び社務所の延192㎡を全焼する。(損害額1,500万円)
- 4月17日 小谷村北小谷来馬及び白岩で地すべりが発生し、県道決壊2箇所、村道70m埋没する。
- 6月 2日 大町市常盤小学校の東校舎を焼失する。(損害額1,283万円)
- 昭和50年 1月 1日 大町市青木湖スキー場の送迎バスが運転操作を誤り青木湖へ転落し、24名死亡、15名負傷する。
- 4月10日 小谷村南小谷虫尾地区で地すべりが発生する。
- 4月23日 小谷村中土土谷大峯地区で地すべりが発生する。
- 5月10日 小谷村南小谷小中学校の通学マイクロバスが馬越地籍で転落し、36名が重軽傷を負う。
- 6月28日 小谷村北小谷戸土で地すべりが発生する。
- 9月 7日 白馬村松川左岸が90m決壊する。
- 昭和51年 1月23日 小谷村で大雪により豪雪対策本部を設置する。
- 6月 6日 小谷村北小谷三ヶ村で火災が発生し、3戸が全焼する。(損害額2,100万円)

- 8月14日 小谷村中土上手村で地すべりが発生し、笹原地区で県道が流失し不通となる。
- 8月14日 白馬村松川左岸が大雨により護岸100m決壊する。
- 8月15日 小谷村中土半坂で地すべりが発生し、村道に457mの亀裂が生じる。52年夏まで続く。
- 12月17日 小谷村中土黒木沢上流で地すべりが発生する。
- 昭和52年 3月25日 小谷村姫川温泉で地すべりが発生し、1名死亡、3名負傷する。
- 4月 3日 小谷村中土外沢の地すべり拡大する。
- 4月28日 白馬村南部地区で突風による風害が発生し、3戸半壊する。(損害額470万円)
- 昭和53年 2月24日 白馬村五竜遠見スキー場で雪崩が発生し、3名負傷、リフト損壊する。(損害額18,000万円)
- 4月30日 大町市県道信濃大町停車場線扇沢地籍で雪崩に通行中の自家用車がまきこまれ、1名死亡、2名負傷する。
- 6月27日 白馬村で大雨により飯森地区30m、タクガ沢120m、犬川30m決壊し、水神宮橋が流失、野平、菅入地区が交通途絶のため孤立する。(被害額28,000万円)
- 6月27日 池田町高瀬川左岸13番堤防165m欠損し、消防団員364名が出動する。
～28日
- 昭和54年 3月30日 春一番突風「春あらし」が吹き、大町市、白馬村で被害が発生する。
～31日 大町市では神社全壊1戸をはじめ、各地に屋根、立木の倒壊又は破壊等計126件におよぶ被害が発生、1名負傷する。白馬村では南部地区を中心に1戸全壊、4戸半壊する。(被害総額900万円)
- 昭和55年 1月 1日 松川村緑町で住宅が全焼し、3名死亡する。
- 1月21日 小谷村が豪雪対策本部を設置する。
- 12月27日 美麻村で12月中旬から降り続いた雪に加え、27日から的大雪(1.5m/日)で除雪が対応できず、陸の孤島と化し、農業用ハウスの倒壊等被害大、災害対策本部を設置する。
- 12月28日 大北地方は豪雪により各地に被害、交通の途絶が続出し、大町市に豪雪対策本部が設置される。市内各地に住宅、倉庫等の全壊、部分壊等184件(届出のみ)の被害が出る。災害名「56 豪雪」
- 12月29日 小谷村が豪雪対策本部を設置する。
- 昭和56年 1月 1日 年末から降り続いた大雪は年始にかけても降り続き、被害を増す。
- 4月 4日 小谷村中土清水で地すべりが発生し、畜牛センターが流される。
- 6月26日 集中豪雨により池田松川橋の橋脚が沈下し、車両通行止めとなる。
- 8月 6日 大町市社山下で農薬散布中のヘリコプターが送電線に接触したことに

- より水田に墜落炎上し、操縦士が負傷する。
- 8月23日 台風15号により小谷村道等26箇所が被災する。
- 昭和57年 4月10日 白馬村内全域で突風による風害が発生し、家屋60戸が一部破損する。
(被害額6,510万円)
- 7月23日 白馬村犬川に土石流が発生し、砂防ダム4基を損壊する。
- 8月 1日 台風10号の豪雨による土砂崩壊のため、小谷村内の国鉄大糸線が不通となる。
- 8月 2日 台風10号の豪雨により高瀬川が増水し、大町市昭和電工西の堤防が80mにわたり決壊する。(損害額約8,000万円)
- 9月10日 小谷村南小谷土倉上部で土砂が2,000m³崩落する。
- 昭和58年 5月25日 大町市の県立大町北高校で部室が放火により全焼する。
- 9月28日 台風10号により大町市内各所の中小河川が氾濫、農具川等に被害が発生し、消防団員536名出動する。また、池田町でも公共土木施設(道路、水道等)が流失・崩壊し、民家2戸が土砂崩れのため避難する。
(被害総額29,200万円)
- 昭和59年 2月 3日 小谷村が豪雪対策本部を設置、大雪による雪崩被害が北小谷地区で発生する。
- 7月21日 美麻村北部で15時から16時にかけて集中豪雨があり、114mmに達し、住宅全壊1戸、床下浸水9戸、水道断水142戸、県道長野大町線及び青具神城線が全面通行止、公共施設・農林施設101箇所、避難世帯13戸、災害対策本部を設置する。
- 7月25日 集中豪雨により白馬村内全域で農業用施設19箇所、林道4箇所、道路3箇所、河川1箇所、橋梁2箇所、床下浸水7戸の被害が発生する。
(被害総額35,440万円)
- 7月26日 小谷村南小谷で大雨により横根沢及び東親沢が氾濫する。
- 昭和60年 4月 1日 小谷村南小谷白馬乗鞍スキー場のペンションが早朝全焼し、宿泊客2名死亡、2名負傷する。(損害額6,100万円) 小屋裏部分の宿泊等が社会問題になる。
- 6月29日 台風6号により池田町陸郷、広津を中心に町道25路線42箇所が被災し、
- ～7月 1日 各道路が通行止め、三郷、平畑で民家2戸が山の崩落により避難する。
- 7月 8日 大雨により白馬村北城、通地籍で土砂崩落があり、国道148号線が通行止めとなる。(～14日まで)
- 昭和61年 4月 1日 八坂村栃沢で民家1戸が全焼し、1名死亡、2名負傷する。
- 5月 9日 大町市桜田町で民家1戸が半焼し、2名死亡する。
- 6月 1日 池田町の県営住宅団地でプロパンガスによる爆発があり、3名が重軽傷を負い、住宅5戸が全半壊する。

- 7月21日 北アルプス野口五郎岳で登山者のテントが爆発し、7名が重軽傷を負う。
- 12月30日 午前9時38分頃、県北西部を震源とする地震が発生し、大北地域は震度3～4を記録、神城、大町、池田で建物の一部に被害が発生する。震源は美麻村と白馬村の境付近。
- 昭和62年 2月 5日 大町市内のスキー場のロッジから灯油推定1,500ℓ流失し、農具川、木崎湖を汚染し、魚類等に被害が発生する。地方事務所、大町市に油流出対策本部が設置される。
- 2月11日 白馬村八方のロッジから灯油2,000ℓが流出し、大楢川、姫川を汚染し、魚類等に被害が発生する。相次ぐ事故で社会問題となる。地方事務所及び白馬村に油流出対策本部が設置される。
- 3月～4月 観測史上まれに見る小雨のため、県下各地で大きな山火が発生する。大北地域も原野、林野火災が相次ぎ、大町市海ノ口で1名死亡、1名負傷する。
- 5月 5日 白馬村森上で住宅が全焼し、1名死亡、2名負傷する。
- 9月22日 大町市常盤の電子機器製造工場で218㎡が全焼する。(損害額2,075万円)
- 昭和63年 9月23日 美麻村青具で住宅が全焼し、1名死亡、消火作業中の消防職員1名負傷する。
- 12月21日 小谷村千国沓掛地籍の県道改良工事現場で土砂崩落事故が発生し、5名死亡、1名負傷する。
- 平成元年10月21日 大町市宮本の山林に軽飛行機ライトプレーンが墜落し、1名死亡する。
- 平成 2年 2月10日 白馬村北城和田野の木造3階の宿泊施設から出火し、消火作業中の消防団員が負傷する。
- 2月11日 小谷村梅池高原スキー場で融雪鉄砲水が発生し、スキーヤー2名が流され死亡する。
- 8月10日 大町市高瀬入の湯股川、水股川合流点で増水により登山者1名が流され死亡する。
- 11月16日 大町市常盤の木工会社作業所596㎡が全焼し、消火作業中の消防団員等2名が負傷する。(損害額3,380万円)
- 平成 3年 2月 5日 小谷村白馬コルチナ国際スキー場で雪崩が発生し、スキーパトロール員1名死亡する。
- 3月11日 池田町3丁目で店舗等7棟721㎡を全半焼する。(損害額4,900万円)
- 9月27日 台風19号による風害で小谷村の民家58戸が損壊する。(被害額10,300万円)
- 平成 4年 5月 8日 池田町広津の福祉事業施設共同作業所693㎡が全焼する。(損害額1,4

- 40万円)
- 平成 5年 2月 7日 大町市宮田町で住宅が全焼し、1名死亡、2名負傷する。
- 平成 6年 4月14日 小谷村中土清水山及び南小谷石坂地籍で地すべりが発生し、17世帯が孤立する。
- 9月15日 白馬村ジャンプ競技場でスノーボードを滑走させコンクリート壁に激突し、2名死亡、2名負傷する。
- 平成 7年 7月11日 梅雨前線の停滞により県北部を中心に集中豪雨災害が発生する。小谷村では家屋の全壊28棟をはじめ、半壊、浸水家屋200棟、国道等の道路及びJR大糸線の流失等被害総額851億円（災害救助法適用）の被害が生じる。災害名「7.11 集中豪雨災害」
- また、道路の流失、農地等の冠水により、大町市12億円、池田町3億円、白馬村63億円、八坂村8億円、美麻村32億円の被害が生じる。
- 平成 8年 1月30日 松川村緑町で住宅が全焼し、1名死亡、1名負傷する。
- 12月 6日 小谷村蒲原沢で土石流が発生し、13名死亡、8名負傷する。災害名「12.6蒲原沢土石流災害」。自治省消防庁要請による緊急消防援助隊（東京消防庁、名古屋市消防局）及び長野県消防相互応援協定による県内各消防本部から捜索応援がなされる。
- 平成 9年 5月 7日 「12.6 蒲原沢土石流災害」の行方不明者1名の捜索が再開される。
- 5月16日 「12.6 蒲原沢土石流災害」の死者は14名となる。
- 平成10年 7月 1日 午前2時22分頃、県北西部を震源とする地震が発生し、震度4を記録、美麻村、八坂村の一部で住宅の瓦、壁の一部破損、墓石転倒、道路亀裂などの被害が生じる。震源は美麻村青具付近。
- 8月12日 大町市高瀬入濁沢の吊り橋付近で増水により登山者2名が流され、1名が行方不明となり捜索を実施する。
- 平成11年 1月20日 北アルプスパノラマロードの松川地籍で路面凍結により車両40台の玉突き衝突事故が発生し、5名負傷する。
- 4月29日 美麻村二重の旧小学校を利用した建物から出火し、折からの強風により約3,000㎡が全焼、山林にも延焼する。（損害額5,600万円）
- 平成12年 3月24日 白馬村北城の砂防堰堤工事現場で土砂崩れが発生し、作業員1名死亡する。
- 5月 6日 松川村馬羅尾で林野火災が発生し、250aが焼失、県消防防災ヘリコプターによる空中消火が行われる。
- 12月18日 亜硝酸ナトリウムを運搬中のトラックから白馬村に5袋、小川村に1袋落下、うち1袋が行方不明となり、19日に発見される。
- 平成13年 3月22日 小谷村北小谷深原で土蔵を取り壊し中、壁が倒れ下敷きになり、1名死亡、2名負傷する。

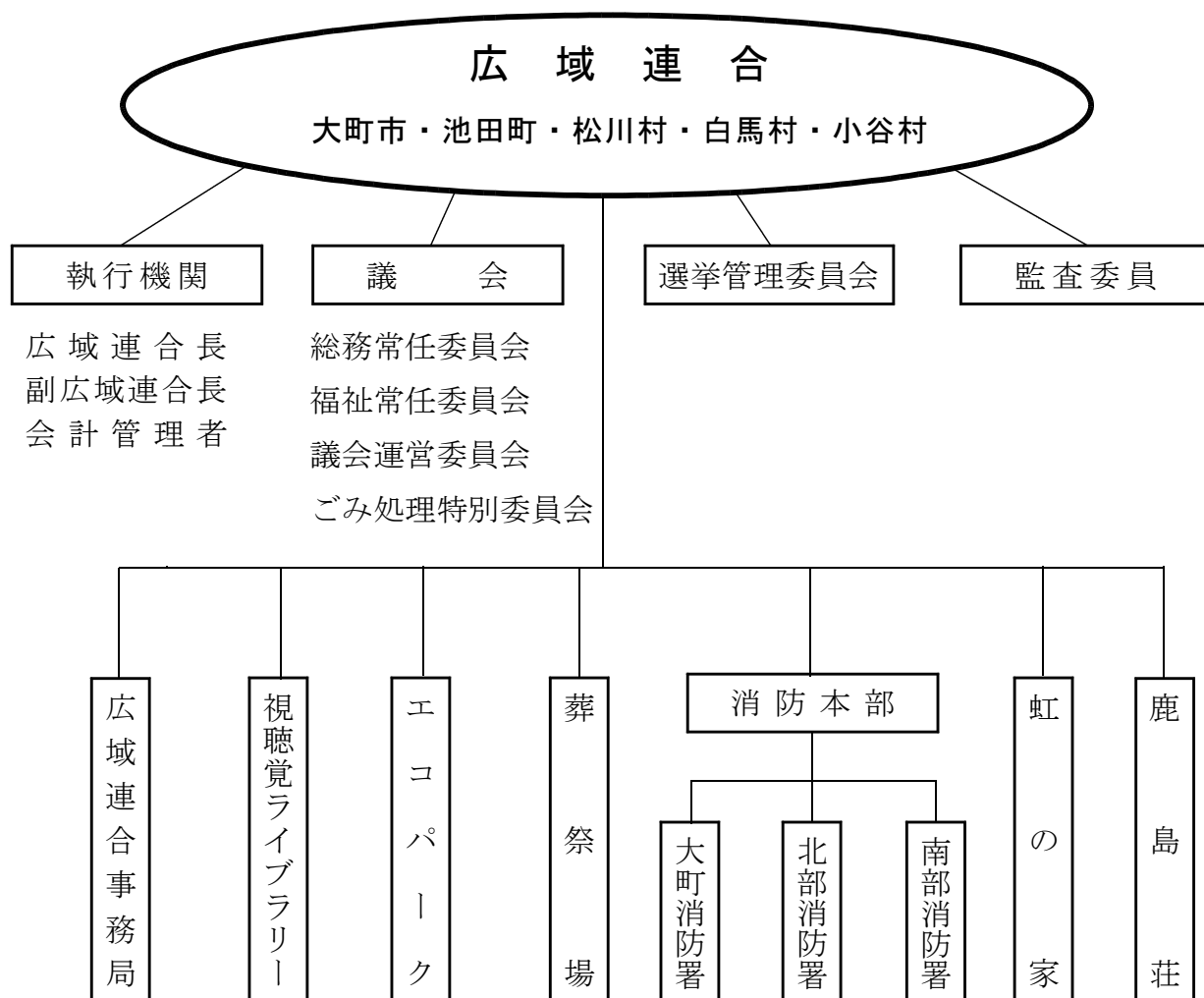
4月～5月	4月から5月にかけて少雨が続き林野火災が9件発生し、717aが焼失、県消防防災ヘリコプターによる消火が2件行われる。
平成14年 1月 7日 ～9日	小谷村、美麻村、白馬村、大町市が豪雪対策本部を設置する。
平成16年10月20日 ～21日	台風23号による豪雨は、降り始めからの連続雨量が大町で172mm、八坂で195mmに達し、負傷者2名、床上浸水2世帯、床下浸水72世帯、道路や農地等1,092箇所が被災するなど、大北地域に甚大な被害をもたらす。(被害想定額828,330万円) 八坂村で避難指示により4名が避難したほか、大町市、池田町、松川村、八坂村で避難勧告により又は自主的に455名が避難する。
平成17年 2月 7日	大町市中央通りの店舗併用住宅から出火し、隣接する店舗、住宅等11棟(うち10棟延べ2,525㎡を全焼) 9世帯17名が被災し、3名死亡、4名負傷する。
12月26日	白馬村、小谷村に豪雪警戒本部が設置され、翌年1月に豪雪対策本部に切り替え、災害救助法が適用される。
平成19年10月14日	白馬村沢渡で住宅が全焼し、2名死亡、1名負傷する。この火災を含め、10月から11月にかけて大町市及び白馬村で5件の住宅火災が相次いで発生し、4名死亡、2名負傷する。
平成20年 2月 3日	小谷村榎池スキー場で雪崩が発生し、スキー客2名死亡する。
5月27日	大町市常盤で住宅が全焼し、2名死亡する。
6月15日	白馬村でパラグライダーが墜落し、男性1名が川に流され死亡する。
8月19日	白馬村大雪溪上部で土砂崩れが発生し、3名が巻き込まれ、1名死亡、1名負傷、1名行方不明となる。
平成21年 4月 8日	大町市常盤で住宅が全焼し、3名死亡する。
5月 9日	白馬大雪溪で原因不明の林野火災が発生し、はい松など約60aを焼失する。
平成24年 1月31日	小谷村に豪雪対策本部が設置され、翌日災害救助法が適用される。
平成26年11月22日	午後10時08分頃、白馬村を震源とする長野県神城断層地震が発生し、最大震度6弱を観測する。この地震により負傷者30名(重傷6人、軽傷24人)、住家被害全壊75棟、半壊111棟、一部損壊463棟の被害が生じた。総務省消防庁要請による緊急消防援助隊及び長野県消防相互応援協定による県内各消防本部から応援がなされる。
平成29年 3月 5日	午後1時33分頃、松本市鉢伏山において長野県消防防災ヘリコプター「アルプス」が訓練フライト中に墜落し、搭乗者9名全員が死亡。当本部から派遣の伊藤 渉消防司令が殉職する。
令和 2年 4月 8日	新型コロナウイルス感染症の全国的規模での蔓延の兆しが予想された

ため、消防本部業務継続計画に基づく体制を実施する。

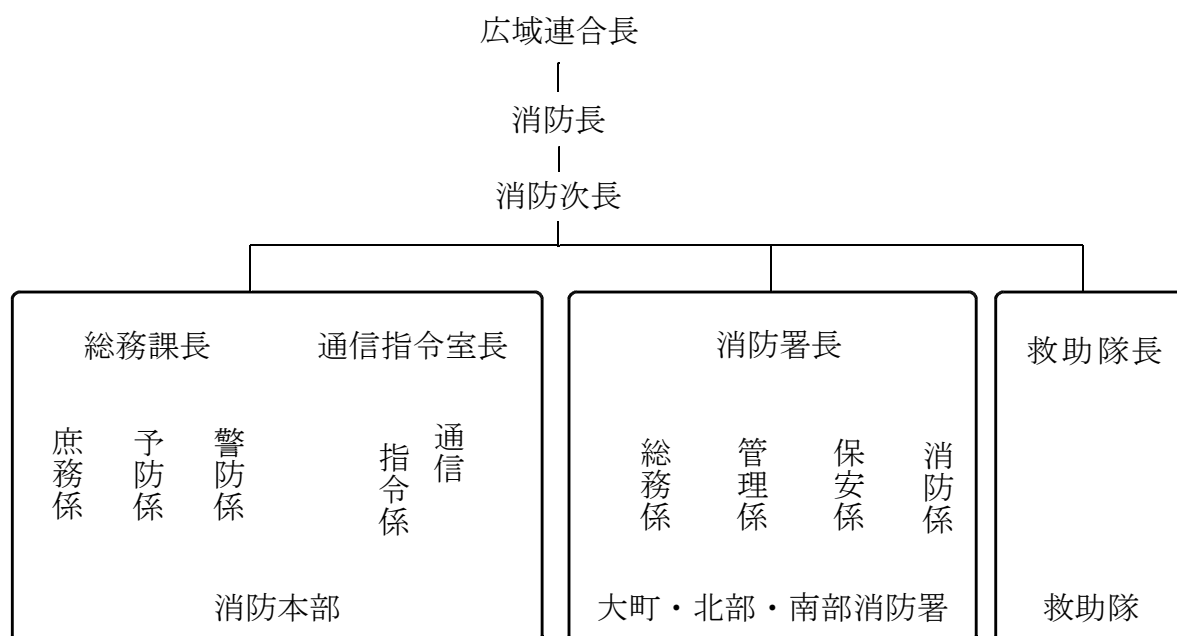
令和 5年12月16日 白馬村みそら野地区で土砂災害（白馬村黒豆沢土砂災害）が発生し、
16棟に被害が発生、15人が建物内に取り残された。

消 防 情 勢

1 北アルプス広域連合組織機構



2 消防本部・署組織機構



3 消防本部・署の事務分掌

消 防 本 部

総 務 課	係 名	事 務 分 掌
	庶 務 係	(1) 公印の保管に関する事。 (2) 文書等の収発、整理及び保管に関する事。 (3) 条例、規則等の制定及び改廃に関する事。 (4) 職員の任免、分限、懲戒、服務その他人事に関する事。 (5) 職員の勤務時間及び給与の支給に関する事。 (6) 職員の公務災害補償及び旅費に関する事。 (7) 職員の研修、福利厚生及び健康管理に関する事。 (8) 職員共済組合に関する事。 (9) 予算編成及び執行経理に関する事。 (10) 物品購入、修繕等に関する事。 (11) 消防用財産、備品の管理及び処分に関する事。 (12) 渉外に関する事。 (13) 表彰に関する事。 (14) 消防職員委員会に関する事。 (15) 他の係の所属に属さない事。
	予 防 係	(1) 火災予防対策に関する事。 (2) 防火査察に関する事。 (3) 危険物の許可、認可及び指導に関する事。 (4) 建築物の同意事務に関する事。 (5) 火災の原因及び損害の調査に関する事。 (6) 火災統計に関する事。 (7) 消防手数料に関する事。 (8) 消防関係団体の指導に関する事。 (9) 火薬類の譲渡、譲受及び消費の許可に関する事。 (10) 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律に基づく意見書の交付に関する事。 (11) 液化石油ガス設備工事の届出に関する事。 (12) その他火災予防対策に関する事。

	係 名	事 務 分 掌
総 務 課	警 防 係	(1) 火災及びその他の災害活動に関すること。 (2) 救急救助業務に関すること。 (3) 消防力の整備及び実態調査に関すること。 (4) 消防地理、水利に関すること。 (5) 消防機械器具に関すること。 (6) 消防訓練に関すること。 (7) その他警防に関すること。
通 信 指 令 室	通信指令係	(1) 災害情報の受理及び出場指令に関すること。 (2) 災害の速報、情報提供及び連絡に関すること。 (3) 出場隊の管制及び指令に関すること。 (4) 災害における関係機関との連絡調整に関すること。 (5) 消防通信の企画及び運用に関すること。 (6) 通信指令システム及び通信機器の保全整備に関すること。 (7) 通信管制データの処理及び管理に関すること。

消 防 署

係 名	事 務 分 掌
総 務 係	(1) 公印の保管に関すること。 (2) 文書の収発、整理及び保管に関すること。 (3) 諸証明の発給に関すること。 (4) 消防設備の検査及び指導に関すること。 (5) 防火対象物の訓練指導に関すること。 (6) 防火対象物に対する良マーク交付及び表示制度に関すること。 (7) 予防査察業務に関すること。 (8) 防火管理団体等に関すること。 (9) 火薬類の譲渡、譲受及び消費の許可に関すること。 (10) 火薬消費場所の立入検査に関すること。 (11) その他、分隊業務の連絡調整に関すること。

係 名	事 務 分 掌
管 理 係	(1) 消防職員の服務に関する事。 (2) 福利厚生及び教養に関する事。 (3) 庁舎及び備品（機械、器具を除く。）の維持管理に関する事。 (4) 予算の執行経理に関する事。 (5) 物品の購入、修繕に関する事。
保 安 係	(1) 火災の予防及び普及宣伝に関する事。 (2) 防火管理に関する事。 (3) 予防査察に関する事。 (4) 火災等の原因及び損害の調査に関する事。 (5) 消防広報及び統計に関する事。 (6) 火災予防条例に基づく届出等に関する事。
消 防 係	(1) 火災及びその他の災害活動に関する事。 (2) 救急業務に関する事。 (3) 消防地理水利に関する事。 (4) 消防装備及び機械器具の運用、保守管理に関する事。 (5) 消防通信に関する事。 (6) 気象観測に関する事。 (7) 訓練指導に関する事。 (8) その他警防に関する事。

救 助 隊

係 名	事 務 分 掌
救 助 隊	(1) 救助隊の運用に関する事。 (2) 救助技術の研究及び訓練計画に関する事。 (3) 救助記録及び統計に関する事。 (4) 救助資機材等の維持管理に関する事。 (5) その他救助に関する事。

4 消防職員の状況

(1) 消防職員配置

(R7. 4. 1現在)

階級別 区 分	消防監	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	合 計
総 務 課	1	1	3	3	1		5	14
通信指令室		1	3	2	4	1		11
大町消防署		1	2	5	10	5	5	28
北部消防署		1	5	4	8	1	7	26
南部消防署		1	1	6	2		6	16
実 員 合 計	1	5	14	20	25	7	23	95

(2) 消防職員階級別勤続年数

(R7. 4. 1現在)

階級別 勤務年数	消防監	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	合 計
5 年未満					1	1	20	22
5 年以上 1 0 年未満					6	6	3	15
1 0 年以上 1 5 年未満					7			7
1 5 年以上 2 0 年未満				2	8			10
2 0 年以上 2 5 年未満				5				5
2 5 年以上 3 0 年未満				6				6
3 0 年以上	1	5	14	7	3			30
合 計	1	5	14	20	25	7	23	95

(3) 消防職員階級別年齢

(R7. 4. 1現在)

階級別 年 齢	消防監	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	合 計
2 0 歳未満							3	3
2 0 歳以上 2 5 歳未満							17	17
2 5 歳以上 3 0 歳未満					6	7	3	16
3 0 歳以上 3 5 歳未満					10			10
3 5 歳以上 4 0 歳未満				1	6			7
4 0 歳以上 4 5 歳未満				3				3
4 5 歳以上 5 0 歳未満				11				11
5 0 歳以上 5 5 歳未満				1				1
5 5 歳以上	1	5	14	4	3			27
合 計	1	5	14	20	25	7	23	95
平 均 年 齢	0. 0	58. 8	58. 3	48. 1	35. 7	26. 4	22. 2	39. 1

5 職員研修状況

長野県消防学校関係

(令和6年度)

教育	科 別	期別	人員	期 間	日数
初任教育	初任科	67	5	4/9 ～ 9/29	174
専科教育	救助科	34	1	5/8 ～ 6/12	36
	特殊災害科	16	1	10/15 ～ 10/24	10
	火災調査科	52	2	11/20 ～ 12/4	15
	予防査察科	57	1	2/4 ～ 2/18	15
	救急科	28	3	1/7 ～ 3/6	59
幹部教育	幹部科	42	1	1/20 ～ 1/31	12
特別教育	救急高度化研修	24	1	3/11 ～ 3/15	5
	操法指導員講習	28	3	4/4 ～ 4/4	1
	ドローン研修	3	3	10/8 ～ 10/8	1
合 計		10	21		328

その他の研修

区 分	期別	人員	期 間	日数
指導救命士養成研修	-	1	5/22 ～ 7/2	42
救急救命士養成研修	67	1	8/28 ～ 3/10	195
合 計	2	2		237

6 相互応援協定

(1) 長野県消防相互応援協定

協定先 長野県内13消防本部

業務内容 県内で災害が発生し、又は発生する恐れがある場合に、各常備消防機関が相互応援を行うことにより被害を最小限に防止するもの

適用の日 平成8年2月14日

(2) 隣接消防本部との協定

① 協定先 長野市

業務内容 大町市八坂地区の国道19号線上及びその沿線に発生した救急業務について応援出動を必要とするもの

適用の日 平成12年4月1日

② 協定先 新潟県糸魚川市

業務内容 火災等の災害及び救急業務に関し、相互の消防力を活用して被害を最小限に防止するもの

適用の日 平成17年8月1日

③ 協定先 富山県新川地域（黒部市、入善町、朝日町）

業務内容 山荘等の遠隔地域において、火災等の災害が発生した場合、相互の応援により被害を最小限に防止するもの

適用の日 平成25年4月1日

④ 協定先 富山県立山町

業務内容 火災等の災害及び救急業務に関し、相互の消防力を活用して被害を最小限に防止するもの

適用の日 令和3年4月1日

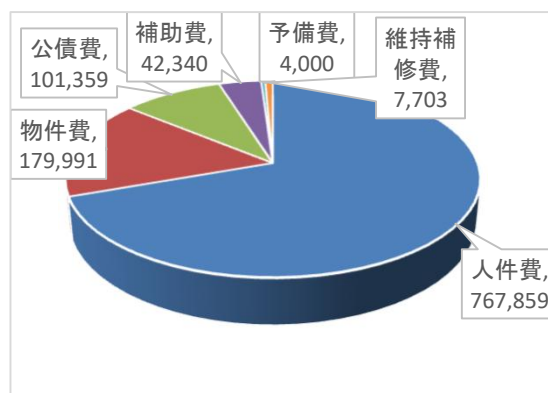
7 令和7年度常備消防費予算額

《 歳入 》 総額1,103,252

《 歳出 》 総額1,103,252 (単位千円)

内訳 (単位千円)

市町村負担金	999,137
地方特例交付金	110
消防手数料	700
繰越金	4,000
繰入金	0
消防債	90,300
諸収入	9,005



8 一世帯当たり及び

住民一人当たりの常備消防費

世 帯	総 数	25,990	世帯
	一世帯当たり	42,449	円
人 口	総 数	55,214	人
	一人当たり	19,981	円

(人口及び世帯数の数値は、住民基本台帳による。)

9 令和7年度市町村別常備消防費負担金

(単位千円)

区分 市町村名	消防費 基準財政需要額 (6年度)	消防費負担金	
		算 出 額	算出額割合
大 町 市	518,763	382,393	38.3%
池 田 町	226,619	167,046	16.7%
松 川 村	227,551	167,734	16.8%
白 馬 村	242,242	178,562	17.9%
小 谷 村	140,278	103,402	10.3%
計	1,355,453	999,137	100%

消 防 施 設

1 消防庁舎の現況

(1) 北アルプス広域消防本部・大町消防署

所在地	大町市大町4724番地1
敷地面積	1,849.05㎡
構造	鉄筋コンクリート一部鉄骨造3階建
建物面積	1階 420.06㎡
	2階 385.25㎡
	3階 340.25㎡
	車庫 343.00㎡
	延面積 1,488.56㎡
付属施設	訓練塔 6階建高さ19m
完成日	平成元年3月15日



(2) 北部消防署

所在地	北安曇郡白馬村大字北城 9715番地2
敷地面積	1,865.50㎡
構造	鉄筋コンクリート一部鉄骨造
建物面積	平屋建
完成日	庁舎・車庫 332.57㎡ 昭和60年3月20日
増設建物	訓練塔 55.83㎡
完成日	昭和62年3月31日
増設建物	車庫 120.00㎡
完成日	平成2年3月20日
増設建物	庁舎 65.16㎡
完成日	平成14年12月30日
増設建物	庁舎 73.77㎡
完成日	令和5年12月27日



(3) 南部消防署

所在地	北安曇郡松川村7179番地3
敷地面積	2,874.01㎡
構造	鉄筋コンクリート造平屋建
建物面積	庁舎 397.00㎡
	訓練塔 60.00㎡
完成日	昭和61年12月10日
増設建物	車庫 39.44㎡
完成日	平成26年2月25日
増設建物	庁舎 40.92㎡
完成日	令和5年12月22日



2 消防通信の現況

(1) 無線局設置状況

種別	設置場所/常置場所		局数	装置数(予備装置を除く)/実装周波数				空中線電力	備 考
				活動波	主運用波	統制波	防災相互波		
基地局	鷹狩山(大町市)		1	3	1	1		各10W	※1
	立山(小谷村)		1	2	1	1		各5W	※1
	南部消防署(松川村)		1	1				1W	
	消防本部(大町市)		1				1	25W	アナログ
固定局	鷹狩山(大町市)		1					14mW	18GHz FWA
	消防本部(大町市)		1					14mW	18GHz FWA
移動局	消防本部	携帯機	6	3	7	3		5W	
		携帯機	2				1	5W	アナログ
	大町消防署	車載機	11	3	7	3		10W	AVM 7機
		携帯機	7	3	7	3		5W	
		半固定機	1	3	7	3		10W	
	北部消防署	車載機	7	3	7	3		10W	AVM 4機
		携帯機	6	3	7	3		5W	
		半固定機	1	3	7	3		10W	
	南部消防署	車載機	5	3	7	3		10W	AVM 3機
		携帯機	6	3	7	3		5W	
		半固定機	1	3	7	3		10W	
	(移動局計)	車載機	23				特定小電力無線機		大町署 17機
		携帯機	25						北部署 10機
		携帯機	2	アナログ					南部署 10機
		半固定機	3						救助隊 5機

※1 統制波は3波切換

(2) 各種回線設置状況

回線用途	受付回線/回線種別	回線数	備 考
緊急通報受付回線	固定電話119	8ch	小谷村のNTT糸魚川局119は糸魚川市消防本部に入電
	IP電話119 (4社)		
	携帯電話119 (4社)		他消防本部への転送回線は別途
	有線放送電話119	1	大町市内
	FAX119	1	登録者のみ
	メール119	1	登録者のみ
	Net119	1	登録者のみ
	駆込電話	3	各署
加入電話等	IP電話	8ch	本部・大町署4、北部署2、南部署2
	アナログ	10ch	本部・大町署6、北部署2、南部署2
	FAX	5	
	携帯電話	13	署等に8、救急車(A1～A5)各1
	有線放送電話	1	大町市内
	衛星携帯電話	4	WideStar×1、イリジウム×3
	災害情報自動案内	1	
	災害時順次指令	2	
データ通信	NTT フレッツ光	1	現場映像伝送、AVMデータ通信
	NTT ドコモ	1	現場映像伝送、緊急消防援助隊タブレット端末
その他	地域衛星通信ネットワーク	1	県防災行政無線衛星系
	Em-Net	1	本部

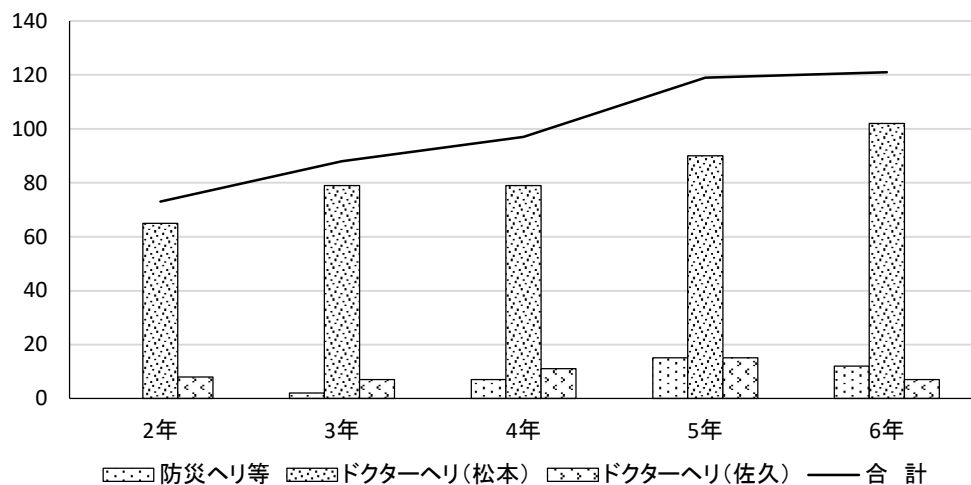
(3) 高機能指令センター設備・機器

装置/設備名称	数量	備 考
指令台	2	輻輳時は4席
自動出動指定装置	一式	
地図等検索装置	一式	
多目的情報表示装置	一式	
長時間録音装置	1	
指令各署端末装置	3	
情報表示盤	7	通信指令室、本部、大町署
無線統制台	2	指揮台
無線回線制御装置	1	
気象情報収集装置	一式	自記風向風速、雨量、温湿度、気圧計
災害状況等自動案内装置	1	
順次指令装置	1	
音声合成装置	1	
出動車両運用管理装置	14	
システム監視装置	一式	
非常用発電設備	4	本部、北部署、南部署、鷹狩山無線基地局
無停電電源装置	6	本部、各署、立山無線基地局
統合型位置情報通知システム	一式	
高所監視カメラ	1	鷹狩山頂
各署等カメラ	14	各署、無線基地局、ヘリポート

(4) ヘリコプターとの連携（活動）状況

(年中)

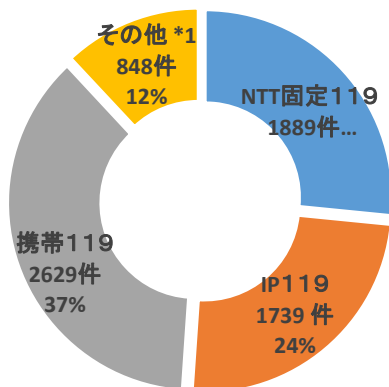
	2年	3年	4年	5年	6年
防災ヘリ等	0	2	7	15	12
ドクターヘリ(松本)	65	79	79	90	102
ドクターヘリ(佐久)	8	7	11	15	7
合 計	73	88	97	119	121



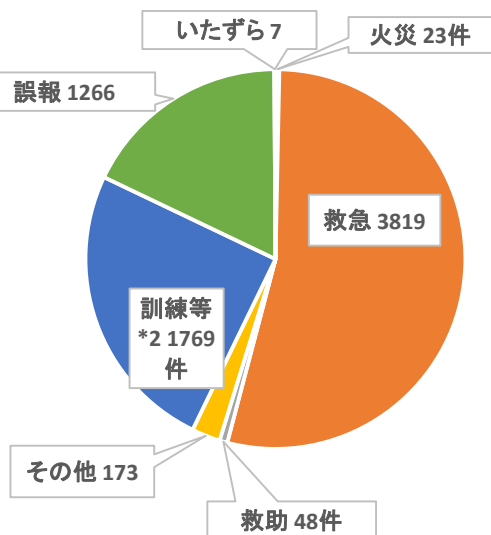
(5) 119番通報受付状況

区 分		火 災	救 急	救 助	その他	訓練等	誤 報	悪 戯	総 数
総 数		23	3,819	48	173	1,769	1,266	7	7,105
内 訳	固定電話	1	712	0	7	554	615	0	1,889
	IP電話	2	1,192	1	13	380	151	0	1,739
	携帯電話	16	1,574	39	36	459	498	7	2,629
	その他	4	341	8	117	376	2	0	848
1月		0	389	4	14	160	107	0	674
2月		2	353	3	17	159	123	2	659
3月		5	317	3	19	134	74	0	552
4月		3	247	4	21	140	58	1	474
5月		3	295	4	13	131	68	0	514
6月		2	257	2	17	147	103	3	531
7月		1	350	3	9	143	123	0	629
8月		1	345	4	9	115	124	0	598
9月		1	288	4	13	146	113	0	565
10月		1	297	5	17	139	145	0	604
11月		2	302	3	13	174	146	0	640
12月		2	379	9	11	181	82	1	665

回線別受付状況

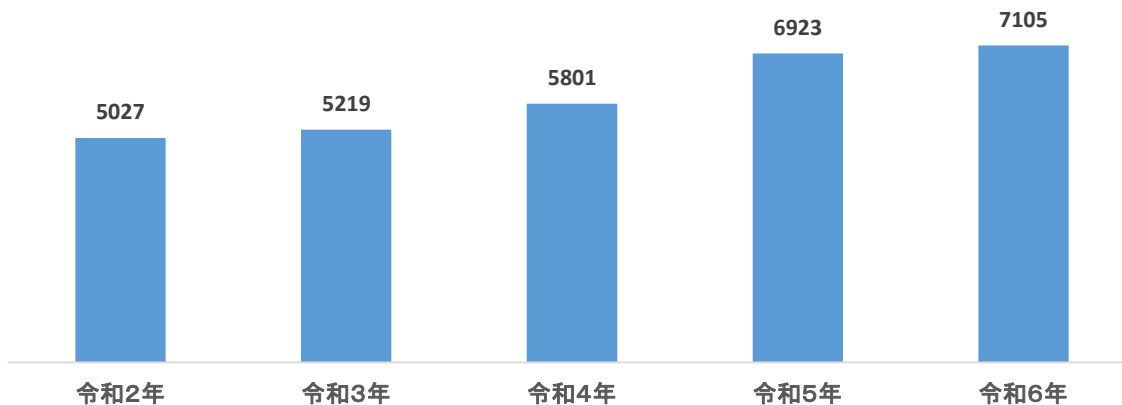


災害別受付状況（年中）



*2；訓練等とは、病院照会、問い合わせ、重複、119試験、通報訓練

通報件数の推移



3 消防用資機材一覧

(1) 本部・署別消防自動車現有状況

(R7.4.1現在)

所属	車 名	車 種	性 能	登録年月	備 考
消防本部・大町消防署	指 令 車	ニッサン・エクストレイル		H31・2	ガソリン4WD
	ポ ン プ 車	ヒノ・デュートロ	A-2級	R4・1	ディーゼル4WD 水槽1.3t
	タ ン ク 車	ヒノ・レンジャー	A-2級	R6・1	ディーゼル4WD 水槽3.0t
	救 助 工 作 車	ヒノ・レンジャー		H20・9	ディーゼル2.9t級クレーン付
	は し ご 車	モリタ専用シャーシMH型	30m級	R2・10	ディーゼル
	査 察 広 報 車	トヨタ・カローラフィールダー		H28・9	ガソリン4WD
	査 察 広 報 車	ニッサン・ラフェスタ		H22・7	ガソリン4WD
	多目的連絡車	ダイハツ・ハイゼット		R4・2	ガソリン4WD
	多目的支援車	トヨタ・レジアスエース		H17・9	ガソリン4WD
	救 急 1 号 車	トヨタ・ハイメディック	高規格	H28・3	ガソリン4WD
	救 急 2 号 車	トヨタ・ハイメディック	高規格	H30・8	ガソリン4WD
	救 急 予 備 車	トヨタ・ハイメディック	高規格	H24・1	ガソリン4WD
	連 絡 車	ニッサン・セレナ		H25・6	ガソリン4WD
北部消防署	指 令 車	マツダ・プレマシー		H26・9	ガソリン4WD
	多目的積載車	ヒノ・デュートロ	B-3級	H13・12	ディーゼル4WD
	タ ン ク 車	ヒノ・レンジャー	A-1級	H25・3	ディーゼル4WD 水槽1.5t
	査 察 広 報 車	ニッサン・NV100		R1・12	ガソリン4WD
	多目的連絡車	ニッサン・NV200		R7・1	ガソリン4WD
	救 急 3 号 車	ニッサン・パラムディック	高規格	R4・3	ガソリン4WD
	救 急 5 号 車	トヨタ・ハイメディック	高規格	H29・11	ガソリン4WD
南部消防署	指 令 車	マツダ・プレマシー		H30・3	ガソリン4WD
	多目的積載車	トヨタ・ハイエース	B-3級	H7・11	ディーゼル4WD
	タ ン ク 車	ミツビシ・ファイター	A-2級	H14・12	ディーゼル4WD 水槽1.5t
	査 察 広 報 車	ニッサン・ウイングロード		H26・9	ガソリン4WD
	救 急 4 号 車	トヨタ・ハイメディック	高規格	R4・9	ガソリン4WD
	資 機 材 搬 送 車	トヨタ・ダット		H25・10	ディーゼル4WD

(2)主要資機材一覧

(R7.4.1現在)

区分	備 品 名	数 量				区分	備 品 名	数 量			
		大町署	北部署	南部署	救助隊			大町署	北部署	南部署	救助隊
消防・救助用	携 帯 発 電 機	6	3	3	2	消防・救助用	張 力 計	1	1	1	1
	耐 熱 服	2	1	1			救 助 縛 帯	2	5	6	1
	ネット式簡易 発 砲 ノズル			1			油圧救助器具	2	1		1
	ピックアップ 式発砲ノズル	1	1	1			エアーソー		1		1
	背 負 式 消 火 水 の う	19	21	16			ガ ス 溶 断 機				1
	消 軽可搬ポンプ	1	1	1			消 エンジン破碎機				1
	ア ル ミ 梯 子		2	1			ハンマードリル		1		1
	三 連 梯 子	3	1	1	1		送 排 風 機	1	1	1	1
	カ ギ 付 梯 子	2	3	1	2		マ ッ ト 型 空 気 ジャ ッ キ		1		1
	小型動力ポンプ		1	1			バ ス ケ ッ ト 型 担 架		2	1	3
	・ チェンソー	4	2	1	1		・ 平 担 架		1		
	空 気 呼 吸 器	7	7	7	10		救 熱 画 像 直 視 装 置	1	1	1	1
	エ ン ジ ン カ ッ タ ー	1	1	1	1		救 緩 降 機				1
	可搬式ウインチ	2	2	2	1		照 明 装 置		1		1
	ポ ー ト パ ワ ー				1		サ バ イ バ ー ス リ ン グ		1		2
	救命索発射銃		1		1		防 毒 防 護 服				2
	救 助 用 安 全 ネ ッ ト	1	1	1			引 揚 用 救 助 ツ ー ル セ ッ ト				2
	用 訓練用マット	1	1	8			用 船 外 機 付 救 助 ボ ー ト				1
救助用	スノーボート		1				画 像 探 索 機				1
	コンプレッサー	1	1	1			水 中 レ ス キ ュ ー ジ ョ ー ズ				1
	フ ォ グ ガ ン	2			2		ビ ー コ ン		13		4
	救 命 胴 衣		12	6	24		プ ロ ー プ		10		4
救助用	エアーツール		1	1	1		電 動 ウ イ ン チ				1

区分	備品名	数 量				区分	備品名	数 量			
		大町署	北部署	南部署	救助隊			大町署	北部署	南部署	救助隊
救急 用	高圧蒸気滅菌器	1				救急 用	気道管理 トレーナー	1	1	1	
	血中酸素 飽和度測定器	3	4	2			AEDトレーナー	7	7	5	
	患者監視装置	3	2	1			心肺蘇生 訓練人形	4	4	4	
	電動式吸引器	4	4	2			オゾン水 生成装置	1	1	1	
	酸素吸入器	3	2	1		そ の 他	風向風速計				
	陰圧式固定 マ ッ ト	5	2	2			自記温湿度計		1	1	
	スクープスト レ ッ チ ャ ー	5	6	2			ガス測定器	1	1	1	
	バックボード	6	5	2			カ メ ラ	2	2	1	1
	自動式人工呼吸器	3	2	1			ストロボ	1	1	1	
	喉 頭 鏡	8	5	3			ストッ プ オ ッ チ	2	3	1	
	自動心肺蘇生器		1	1			電磁式膜厚計	1			
	高度救命処置 シミュレーター	2					レ ー ザ ー 距 離 計	1	2		
	静脈路確保 トレーナー	2		1			引火点測定器	2			
	二相式除細動器	4	4	1			プロジェクター	2	1	1	

4 現有消防水利

(R7. 4. 1現在)

種 別		市町村別 署別	大町消防署	北部消防署		南部消防署	
			大町市	白馬村	小谷村	池田町	松川村
消 火 栓	公 設		1, 320	586	289	462	366
	私 設		111	32	9	5	6
	小 計		1, 431	618	298	467	372
防 火 水 そう	公 設	40m ³ 以上	156	35	71	36	30
		20～40m ³	41	30	18	36	8
		20m ³ 未満	25	17	68	34	
	私 設	40m ³ 以上	12	6	2	2	8
		20～40m ³	4				
		20m ³ 未満			1		
	小 計		238	88	160	108	46
そ の 他	河 川		9			1	
	プ ー ル		10	3	2	4	2
	採 水 口		3	1			
	小 計		22	4	2	5	2

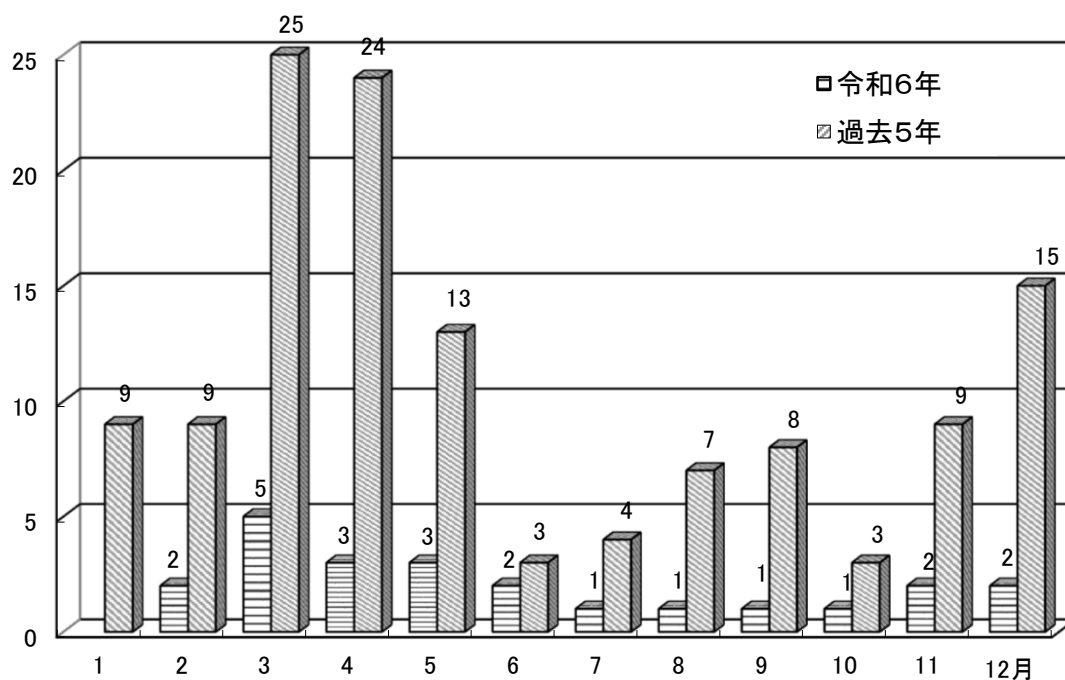
火 災 統 計

1 市町村別火災発生状況

令和6年中

消 防 署	区 市 町 村 別	火災件数				焼損棟数				焼損面積			死傷者		り災世帯			り	損害見積額（千円）					出 火 率			
		計	建物	林	車	その他	計	全	半	小	負傷者	死者	建物	床面積	表面積	林野	林野a	計	全	半	小	合計	建物		建物	林	車
大町署	大町市	10	6			4	16	9		2	5	349	35		3	6	2	2	2	14	6,935	5,617	1,300			18	4.0
	白馬村	7	4	1	1	1	4	1		2	1	411	14	11	1	2	1		1	7	28,003	8,502	2,553		253	16,695	8.4
北部署	小谷村	1	1				1			1			2			1			1	2	31	31					3.8
	池田町	1				1															5					5	1.1
南部署	松川村	4	2			2	2	1		1		38		5		1			1	1	798	691	104			3	4.2
	合 計	23	13	1	1	8	23	11		6	6	798	51	16	4	10	3	2	5	24	35,772	14,841	3,957		253	16,721	4.2

2 月別火災発生状況



3 出火原因別件数

(年中)

原因 年	たばこ	こま	かまど	風呂	焼却炉	ストーブ	こたつ	ボイラー	煙突・煙道	排気管	電気機器	電気装置	電灯・電話等の配線	内線燃器具	配線器具	火あそび	マッチ・ライター	たき火	溶接機・切断機	灯台	取入れ	火の疑い	放火	その他の	不明	合計
令和6年		4				2			1	1	1	1	1	1	1	1	3			2	3			2	2	23
令和5年	2	2			1	3				1	1	1			1			6		2	5		2	2	3	32
令和4年	1	1				4				2				1				5			7			4	2	27
令和3年		2				2			2			2						4			1	3		4	5	25
令和2年						1			1									4	1		6	1		3	5	22
合計	3	9			1	12			4	1	4	3	1	3		1	22		1	4	22	4	2	15	17	129

4 市町村別火災件数等(過去5年)

市町村	区 分	過 去 5 年				
		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
大町市	火 災 件 数	12	11	10	13	10
	損害額(千円)	80,566	12,767	9,583	6,571	6,935
	死 傷 者 数	2	4	6	3	3
池田町	火 災 件 数	1		3	4	1
	損害額(千円)			5,193	3,391	5
	死 傷 者 数			3	1	
松川村	火 災 件 数	3	5	9	7	4
	損害額(千円)	1	8,733	3,466	34,016	798
	死 傷 者 数	1	2	1	2	
白馬村	火 災 件 数	2	5	5	5	7
	損害額(千円)	371	31,185	15,500	57	28,003
	死 傷 者 数		1	1		1
小谷村	火 災 件 数	4	4		3	1
	損害額(千円)	8,316	1,058		10,763	31
	死 傷 者 数		2		1	
合 計	火 災 件 数	22	25	27	32	23
	損害額(千円)	89,254	53,743	33,742	54,798	35,772
	死 傷 者 数	3	9	11	7	4

救急・救助統計

1 月別署別救急出動状況

(令和6年中)

市町村別		月 別 区分	合計	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月
		出 動 件 数	3,927	395	363	325	258	303	260	355	361	297	308	308	394
合 計		不搬送件数	207	21	26	21	15	11	6	22	18	16	12	20	19
		搬 送 人 員	3,763	377	340	306	248	296	256	337	349	286	299	290	379
大 町 消 防 署	大町市	出動件数	1,738	154	146	152	118	123	137	161	156	135	148	141	167
		不搬送件数	81	11	8	8	4	3	4	13	5	8	3	10	4
		搬送人員	1,672	144	140	145	115	121	134	150	152	129	148	131	163
	その他	出動件数	161	17	26	9	9	16	6	12	15	11	6	13	21
		不搬送件数	15	1	4	1	0	1	0	1	2	1	0	2	2
		搬送人員	148	16	23	8	10	15	6	11	13	10	6	11	19
	小 計	出動件数	1,899	171	172	161	127	139	143	173	171	146	154	154	188
		不搬送件数	96	12	12	9	4	4	4	14	7	9	3	12	6
		搬送人員	1,820	160	163	153	125	136	140	161	165	139	154	142	182
北 部 消 防 署	白馬村	出動件数	823	119	96	70	51	63	40	63	75	50	53	56	87
		不搬送件数	51	6	9	6	5	2	0	5	5	0	3	1	9
		搬送人員	782	114	87	64	46	61	40	58	73	51	50	57	81
	小谷村	出動件数	228	25	25	17	10	15	18	25	19	19	17	11	27
		不搬送件数	3	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
		搬送人員	228	25	24	17	10	14	19	25	19	20	17	11	27
	その他	出動件数	56	2	2	4	3	3	2	6	12	4	8	4	6
		不搬送件数	13	0	1	1	1	0	0	1	2	1	2	1	3
		搬送人員	49	2	1	4	5	5	2	5	10	3	6	3	3
	小 計	出動件数	1,107	146	123	91	64	81	60	94	106	73	78	71	120
		不搬送件数	67	6	11	7	6	3	0	6	7	2	5	2	12
		搬送人員	1,059	141	112	85	61	80	61	88	102	74	73	71	111
南 部 消 防 署	池田町	出動件数	459	32	33	34	34	47	26	35	42	46	47	43	40
		不搬送件数	17	0	2	1	1	1	0	1	1	3	2	5	0
		搬送人員	442	32	31	33	33	46	26	34	41	43	45	38	40
	松川村	出動件数	367	36	23	31	24	30	29	42	33	26	24	33	36
		不搬送件数	18	2	0	3	2	2	2	1	2	0	2	1	1
		搬送人員	353	35	23	28	22	28	27	43	32	26	22	32	35
	その他	出動件数	95	10	12	8	9	6	2	11	9	6	5	7	10
		不搬送件数	9	1	1	1	2	1	0	0	1	2	0	0	0
		搬送人員	89	9	11	7	7	6	2	11	9	4	5	7	11
	小 計	出動件数	921	78	68	73	67	83	57	88	84	78	76	83	86
		不搬送件数	44	3	3	5	5	4	2	2	4	5	4	6	1
		搬送人員	884	76	65	68	62	80	55	88	82	73	72	77	86

2 種別市町村別出動状況

(令和6年中)

市町村別		種 別 区分	合計	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				
														転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 材 搬 送	そ の 他	
合 計		出動件数	3,927	5		2	205	41	25	788	13	15	2,327	485	4		17	
		不搬送件数	207			1	18		1	31	4	5	125	1	4		17	
		搬送人員	3,763	5		1	226	41	25	759	10	10	2,202	484				
大 町 消 防 署	大町市	出動件数	1,738	4		1	78	18	12	328	6	6	1,097	182	2		4	
		不搬送件数	81				4			13		1	56	1	2		4	
		搬送人員	1,672	4		1	87	18	12	316	7	5	1,041	181				
	その他	出動件数	161	1			16	2		38	1	1	79	23				
		不搬送件数	15				5			3	1		6					
		搬送人員	148	1			13	2		35		1	73	23				
	小 計	出動件数	1,899	5		1	94	20	12	366	7	7	1,176	205	2		4	
		不搬送件数	96				9			16	1	1	62	1	2		4	
		搬送人員	1,820	5		1	100	20	12	351	7	6	1,114	204				
	北 部 消 防 署	白馬村	出動件数	823			1	49	10	9	207	3	4	368	165			7
			不搬送件数	51			1	1			8	3	2	29				7
			搬送人員	782				56	10	10	200		2	339	165			
小谷村		出動件数	228				9	2	1	66			139	10			1	
		不搬送件数	3							2							1	
		搬送人員	228				12	2	1	64			139	10				
その他		出動件数	56				15	1	1	15			23		1			
		不搬送件数	13				4			2			6		1			
		搬送人員	49				17	1	1	13			17					
小 計		出動件数	1,107			1	73	13	11	288	3	4	530	175	1		8	
		不搬送件数	67			1	5			12	3	2	35		1		8	
		搬送人員	1,059				85	13	12	277		2	495	175				
南 部 消 防 署	池田町	出動件数	459				12	3	1	67	1	2	278	93			2	
		不搬送件数	17				2		1	3		1	8				2	
		搬送人員	442				10	3		64	1	1	270	93				
	松川村	出動件数	367				15	3	1	58	2	2	273	10	1		2	
		不搬送件数	18									1	14		1		2	
		搬送人員	353				19	3	1	58	2	1	259	10				
	その他	出動件数	95				11	2		9			70	2			1	
		不搬送件数	9				2						6				1	
		搬送人員	89				12	2		9			64	2				
	小 計	出動件数	921				38	8	2	134	3	4	621	105	1		5	
		不搬送件数	44				4		1	3		2	28		1		5	
		搬送人員	884				41	8	1	131	3	2	593	105				

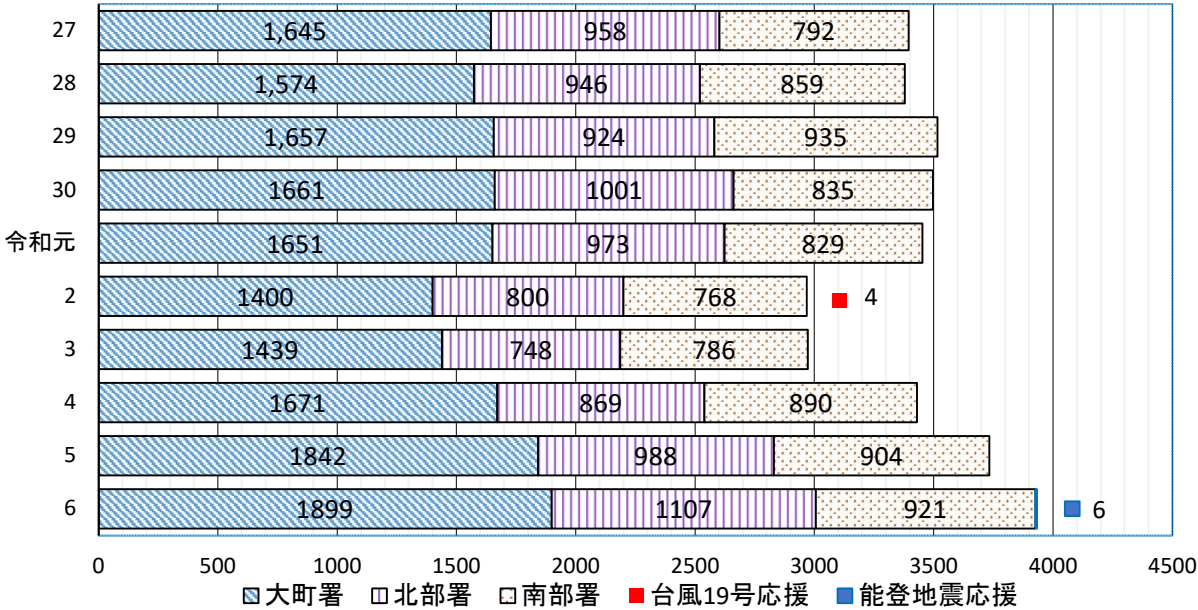
3 事故種別搬送人員

(令和6年中)

年令区分	傷病程度	事故種別											計
		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	
新生児 (～28日以内)	死 亡												
	重 症										1		1
	中等症												
	軽 症												
	その他												
	計										1		1
乳幼児 (29日～満7歳未満)	死 亡												
	重 症												
	中等症							3			11	9	23
	軽 症				4			17			53		74
	その他												
	計				4			20			64	9	97
少 年 (満7歳以上～18歳未満)	死 亡												
	重 症						1	1			1		3
	中等症				3			7			11	8	29
	軽 症				10		9	27	1		32	2	81
	その他												
	計				13		10	35	1		44	10	113
成 人 (満18歳以上～65歳未満)	死 亡				2	1		3		2	9		17
	重 症				8	10		25		1	27	30	101
	中等症				23	3	2	64		1	125	88	306
	軽 症	2			88	16	12	147	6	2	270	27	570
	その他												
	計	2			121	30	14	239	6	6	431	145	994
老 人 (満65歳以上)	死 亡				1			9			54	1	65
	重 症				6	1		81	1		162	89	340
	中等症	2			18	8		182		4	894	199	1307
	軽 症	1		1	63	2	1	193	2		552	31	846
	その他												
	計	3		1	88	11	1	465	3	4	1662	320	2558
合 計	死 亡				3	1		12		2	63	1	82
	重 症				14	11	1	107	1	1	191	119	445
	中等症	2			44	11	2	256		5	1041	304	1665
	軽 症	3		1	165	18	22	384	9	2	907	60	1571
	その他												
	計	5		1	226	41	25	759	10	10	2202	484	3763

(注) 死亡:初診時に死亡が確認されたもの 重症:3週間以上の入院を要するもの 中等症:入院を要し重症でないもの 軽症:入院を要しないもの
その他:医療機関以外へ搬送したもの

4 出動状況(過去10年)



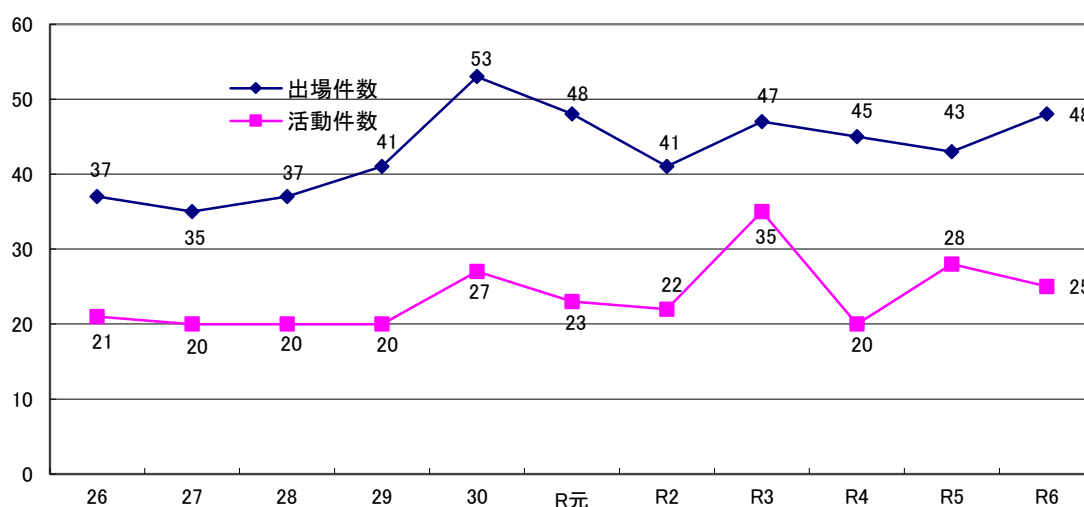
5 救助活動状況

(1) 出動件数及び活動件数

(R6年中)

種別 件数	火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物事故	酸欠事故	爆発事故	その他事故	計
出動件数	0	25	1	1	2	6	1		12	48
活動件数	0	11	1	0	2	2	1		8	25

(2) 過去10年間の出動件数及び活動件数



(3) 主な活動内容

(R6年中)

発生日	発生場所	事故種別	救助内容
4.16	白馬村北城ど んぐり地籍山 林内	機械による事故	林業作業中にチェーンソーが左大腿部に接触し、負傷した要救助者を応急処置をした後、背負い搬送にて救出したもの。
8.15	大町市 柏原新道登山 道	その他の事故	種山山荘～柏原新道登山口の下山中、転落し岩肌で右半身を強打し、行動不能となった要救助者を背負い搬送により救出したもの。
10.4	大町市美麻 青具トンネル 内	交通事故	4トントラックと2トントラックの衝突事故により車の中に閉じ込められた要救助者4名を大型油圧救助器具等を使用して救出したもの。
12.4	大町市大町 大新田町	建物等による事故	要救助者が家の中にいる状態で鍵を施錠してしまい、安否確認をしてほしいとの家人からの通報により救助要請。窓ガラスを破壊後侵入し倒れていた要救助者を発見し、救急搬送に至ったもの。

予 防 統 計

1 建築同意件数

(1) 市町村別用途別件数

(R6年度)

対 象 物 別 項 別			署 別 市町村別	大町消防署	北部消防署		南部消防署		合 計
			大町市	白馬村	小谷村	池田町	松川村		
1	イ	映画館等							
	ロ	集会場等							
2	イ	キャバレー等							
	ロ	遊技場等							
	ハ	風俗施設等							
	ニ	個室店舗等							
3	イ	料理店等							
	ロ	飲食店等	1	1				2	
4	百貨店・店舗等			1		1		2	
5	イ	旅 館 等	4	76	3			83	
	ロ	共同住宅等	1	3				4	
6	イ	病 院 等	1					1	
	ロ	福祉施設等	1					1	
	ハ	デイサービス等	3					3	
	ニ	幼 稚 園 等	1					1	
7	学 校 等		1					1	
8	図 書 館 等								
9	イ	サ ウ ナ 等							
	ロ	公衆浴場等							
10	停 車 場 等								
11	神 社 ・ 寺 院 等								
12	工 場 等		4			4	2	10	
13	車 庫 等		2	1				3	
14	倉 庫 等		3	3			2	8	
15	その他の事業所		3	1				4	
16	イ	特定複合用途	2					2	
	ロ	非特定複合用途							
17	文 化 財 等								
その他	一 般 住 宅		4	2				6	
	工 作 物								
	そ の 他		38	31	1	10	11	91	
合 計			69	119	4	15	15	222	

2 立入検査件数

(1) 市町村別用途別防火対象物数（延べ面積150㎡以上）

(R7. 3. 31現在)

対 象 物 項 別			署 別 市町村別	大町消防署	北部消防署		南部消防署		合 計
			大町市		白馬村	小谷村	池田町	松川村	
1	イ	映画館等	5	3			1	1	10
	ロ	集会場等	50	14	5		25	21	115
2	イ	キャバレー等							
	ロ	遊技場等	5	1				1	7
	ハ	風俗施設等							
	ニ	個室店舗等	1	1					2
3	イ	料理店等	5				1	2	8
	ロ	飲食店等	36	36	11		8	4	95
4	百貨店・店舗等		61	31	3		15	13	123
5	イ	旅 館 等	107	815	165		8	6	1,101
	ロ	共同住宅等	140	80	20		16	39	295
6	イ	病 院 等	17	5	1		8	6	37
	ロ	福祉施設等	17	5			7	8	37
	ハ	ディサービス等	41	5	5		11	16	78
	ニ	幼 稚 園 等	2	1			4		7
7	学 校 等		27	8	6		12	6	59
8	図 書 館 等		8	3	3		2	1	17
9	イ	サ ウ ナ 等							
	ロ	公衆浴場等	6	7	1			1	15
10	停 車 場 等		4	6	8				18
11	神 社 ・ 寺 院 等		20	3	5		8	3	39
12	工 場 等		244	22	13		65	83	427
13	車 庫 等		21	5	3		3		32
14	倉 庫 等		160	20	6		17	20	223
15	その他の事業所		199	67	29		23	20	338
16	イ	特定複合用途	193	133	49		40	29	444
	ロ	非特定複合用途	74	17	16		19	7	133
17	文 化 財 等		2						2
合 計			1,445	1,288	349		293	287	3,662

(2) 立入検査実施状況

(R7.3.31現在)

署 別 市町村別 対 象 物 項 別			大町消防署	北部消防署		南部消防署		合 計	防 火 対象物 総 数	実施率 (%)
			大町市	白馬村	小谷村	池田町	松川村			
1	イ	映画館等	5	1				6	10	60.0
	ロ	集会場等	3				1	4	115	3.5
2	イ	キャバレー等								
	ロ	遊技場等							7	
	ハ	風俗施設等								
	ニ	個室店舗等							2	
3	イ	料理店等							8	
	ロ	飲食店等	1		2			3	95	3.2
4		百貨店・店舗等	3	4	1		2	10	123	8.1
5	イ	旅 館 等	13	133	15		1	162	1,101	14.7
	ロ	共同住宅等	3	1	3		3	10	295	3.4
6	イ	病 院 等		1				1	37	2.7
	ロ	福祉施設等							37	
	ハ	デイサービス等	1	1			2	4	78	5.1
	ニ	幼 稚 園 等							7	
7		学 校 等	1					1	59	1.7
8		図 書 館 等	1					1	17	5.9
9	イ	サ ウ ナ 等								
	ロ	公衆浴場等	1					1	15	6.7
10		停 車 場 等	1	1	1			3	18	16.7
11		神 社 ・ 寺 院 等	2	1		1		4	39	10.3
12		工 場 等	2			2	2	6	427	1.4
13		車 庫 等	2					2	32	6.3
14		倉 庫 等	1	1		1	1	4	223	1.8
15		その他の事業所	5	3				8	338	2.4
16	イ	特定複合用途	9	19	7	4	3	42	444	9.5
	ロ	非特定複合用途	2	2		3	1	8	133	6.0
17		文 化 財 等	1					1	2	50.0
合 計			57	168	29	11	16	281	3,662	7.7

3 防火対象物定期点検

(R7. 3. 31現在)

項目別 対象物 項 別			点検該当 対象物数	点検報告済 対象物数	点検報告 特例認定数	適合表示制度 対象施設数 (宿泊施設)	適合表示制度 交付施設数 (宿泊施設)
1	イ	映画館等	5		4		
	ロ	集会場等	16	2	10		
2	イ	キャバレー等					
	ロ	遊技場等	3	1	1		
	ハ	風俗施設等					
	ニ	個室店舗等					
3	イ	料理店等	2		1		
	ロ	飲食店等	7	1			
4		百貨店・店舗等	20	9	7		
5	イ	旅館等	155	68	43	98	6
6	イ	病院等	2	2			
	ロ	福祉施設等	1				
	ハ	デイサービス等					
	ニ	幼稚園等					
9	イ	サウナ等					
16	イ	特定複合用途	67	19	19	15	1
合 計			278	102	85	113	7

4 防火管理講習実施状況

(1) 新規講習

(S60年～R6年)

講 習 年 月 日		講 習 場 所	受講者数	種 別
昭和60年～令和元年		消防本部他56会場	4,059	甲 種
令和2年	6/17～18	フレンド・プラザ大町	中止	〃
	10/21～22	〃	40	〃
令和3年	6/24～25	〃	39	〃
	10/19～20	〃	35	〃
令和4年	6/29～30	〃	38	〃
	10/13～14	〃	22	〃
令和5年	6/13～14	サン・アルプス大町	56	〃
	10/18～19	〃	27	〃
令和6年	6/11～12	フレンド・プラザ大町	47	〃
	10/ 9～10	〃	31	〃

(2) 再講習

講 習 年 月 日	講 習 場 所	受講者数
平成17年～令和3年	消防本部他4会場	226
令和4年11月16日	消 防 本 部	17
令和5年11月15日	〃	18
令和6年11月13日	北アルプス市町村会館	12

5 危険物事務の状況

(1) 市町村別施設数（完成検査済交付施設数）

(R7. 3. 31現在)

市町村別	製造所等の区分	貯 蔵 所								取 扱 所			合 計
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小 計	給油取扱所	一般取扱所	小 計	
大 町 市		20	31	7	97	1	44	6	206	25	39	64	270
池 田 町		1	2	1	16	0	4	0	24	4	8	12	36
松 川 村		2	6	0	11	0	8	0	27	5	4	9	36
白 馬 村		1	37	3	218	2	18	5	285	23	16	39	324
小 谷 村		2	27	3	104	2	4	2	141	11	6	17	158
合 計		26	103	14	446	5	78	13	683	68	73	141	824

(2) 規制事務処理状況

(R6年度)

施設区分	貯 蔵 所								取 扱 所			合 計
	内 貯	屋 外 貯	屋 内 貯	地 下 貯	簡 易 貯	移 動 貯	外 貯	小 計	給 取	一 取	小 計	
設 置 許 可	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2
変 更 許 可	0	0	0	9	0	3	0	12	4	4	8	20
設置の完成検査	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2
変更の完成検査	0	0	0	9	0	3	2	14	4	4	8	22
仮 使 用 承 認	0	0	0	1	0	0	0	1	2	2	4	5
廃 止 届	0	1	0	30	0	8	2	41	0	2	2	43
譲 渡 引 渡 届	0	0	0	8	0	2	0	10	0	0	0	10
種 類 ・ 数 量 変 更	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
保安監督者選解任届	6	5	1	4	0	0	0	16	3	9	12	28
資 料 提 出 届	0	1	0	1	0	1	0	3	3	1	4	7
予 防 規 程	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
合 計	6	7	1	62	0	17	8	101	16	24	40	141

6 火薬類譲渡・譲受・消費許可件数

(R6年度)

火薬類譲渡許可	1 件
火薬類譲受・消費許可（加工品のみのみ）	0 件
火薬類譲受・消費許可（火薬爆薬2.5kg以下）	3 件
火薬類譲受・消費許可（火薬爆薬2.5kgをこえるもの）	6 件
煙火消費許可	18 件
合 計	28 件

7 広報活動等実施状況

(R6年度)

区 分	消 防 署 見 学	一 日 消 防 士	一 日 救 急 隊 員	体 験 入 署 等	小 中 学 生 防 火	ポ ス タ ー 募 集	水 難 等 救 急 講 習	起 震 車 体 験	災 害 弱 者 ・ 一 般	家 庭 防 火 診 断	有 線 ・ 広 報 誌 等	に よ る 防 火 広 報	出 前 防 災 ・ 生 涯	学 習 等 訓 練 指 導
回 数	16	1	12	3	108	7	0	98	34					
対 象 人 員	558	3	28	356	2,028	454	0		3,239					

8 各種届出事務処理状況

(R6年度)

種 別 署 別 市町村別	大町消防署	北部消防署		南部消防署		計
	大町市	白馬村	小谷村	池田町	松川村	
防 火 管 理 者 選任（解任）届出	34	49	11	22	15	131
消 防 計 画 作成（変更）届出	25	19	14	7	6	71
液化石油ガス設備 工 事 届 出	0					0
圧縮アセチレンガス 等貯蔵取扱い届出	4	10		1	2	17
防 火 対 象 物 使 用 開 始 届 出	10	25	1	3	7	46
炉・厨房設備・ ボイラー等設置届出	4	11	2	1	3	21
発電設備等設置届	8	2	13	1	1	25
火災とまぎらわしい 行 為 等 届 出	109	41	19	57	29	255
煙 火 届	24	48	11		7	90
催 物 開 催 届	1	4		8	7	20
水 道 断 減 水 届	16	1		1	8	26
道 路 工 事 届	233	120	105	86	54	598
少量危険物等貯蔵 取 扱 い 届	17	33	13	3	1	67
合 計	485	363	189	190	140	1,367

9 中高層建築物の状況

(R7. 3. 31現在)

対象物 項 別			大町消防署					北部消防署					南部消防署			計
			3	4	5	6	7 以上	3	4	5	6	7 以上	3	4	7 以上	
1	イ	映画館等							1							1
	ロ	集会場等														
2	イ	キャバレー等														0
	ロ	遊技場等														
	ハ	風俗施設等														
	ニ	個室店舗等														
3	イ	料理店等														
	ロ	飲食店等	4					5								9
4		百貨店・店舗等	6					2								8
5	イ	旅館等	7	2	6		3	65	48	29	2	1	1			164
	ロ	共同住宅等	35	4	2			19	6	4	1		10	3		84
6	イ	病院等	2	1		1							2		1	7
	ロ	福祉施設等	2						1							3
	ハ	デイサービス等	1	1												2
	ニ	幼稚園等														
7		学校等	7	2				4					3			16
8		図書館等	1													1
9	イ	サウナ等														
	ロ	公衆浴場等														
10		停車場等	1					1								2
11		神社・寺院等														
12		工場等	9	2			2						2			15
13		車庫等														
14		倉庫等	5					1								6
15		その他の事業所	24	7	3			18	4	1			5			62
16	イ	特定複合用途	44	2				37	4	3	1		3	1		95
	ロ	非特定複合用途	9	1				5					4			19
17		文化財等														
合 計			157	22	11	1	5	157	64	37	4	1	30	4	1	494

消 防 団 関 係

1 沿 革

(1) 大町市消防団

昭和23年 3月	自治体消防として大町、平村、常盤村、社村それぞれ消防団が発足する。
昭和29年 7月	大町、平、常盤、社の一町三ヶ村が合併したことに伴い大町市消防団が定数1,270名で発足する。
昭和32年 2月	日本消防協会優良消防団表彰旗を受賞する。
昭和42年 3月	消防庁長官表彰（竿頭綬）を受賞する。
昭和41年 9月	第13回県下消防団長大会が当市において開催される。
昭和43年 4月	常備消防の充実に伴い定数を大幅に削減し、780名となる。
昭和48年11月	当市消防団長が県消防協会長に就任する。
昭和52年 1月	市民初参加の「消防出初式」を実施する。
昭和55年 4月	定数を626名とする。
昭和58年 3月	消防庁長官表彰旗を受賞する。
平成 5年 4月	消防団活性化対策検討委員会を設置する。
11月	消防団活性化対策検討委員会答申書を作成し、団長に提出する。
平成 6年 4月	消防団活性化委員会を設置する。
平成 7年 4月	消防団活性化対策事業により、女性消防団員が入団する。
平成 8年 4月	長野県市町村災害時相互応援協定を締結する。 梅雨前線豪雨災害に対する水防功績により、全国水防管理団体連合会長表彰を受賞する。
平成 9年 4月	蒲原沢土石流災害に対する功績により、消防庁長官感謝状及び日本消防協会長表彰を受賞する。
平成18年 1月	大町市、八坂村、美麻村が合併したことに伴い、定数が835名となる。
平成19年 4月	平成18年 7月梅雨前線豪雨災害に対する水防功績により、全国水防管理団体連合会会長表彰を受賞する。
平成26年 4月	消防団員の減少に伴い定数を削減し、769名となる。
6月	当市消防団長が県消防協会長に就任する。
12月	市役所消防応援隊結成、消防団支援を開始する。
平成28年 4月	喇叭部が組織再編により本部分団付となる。
平成30年 5月	県下第95回都市消防長・消防団長並びに事務主任者会議が当市において開催される。
平成30年 6月	消防団員定年制の撤廃及び機能別団員制が導入される。
平成31年 3月	日本消防協会優良消防団表彰旗を受賞する。 消防庁長官表彰（竿頭綬）を受賞する。
令和 2年 6月	市ポンプ操法・ラッパ吹奏大会が新型コロナウイルス感染防止のため中止となる。

令和 3年 6月	市ポンプ操法・ラッパ吹奏大会が新型コロナウイルス感染防止のため中止となる。
令和 4年 1月	消防出初式が新型コロナウイルス感染防止のため中止となる。
令和 5年 4月	消防団員の減少に伴い組織を再編し7分団14部とする。また、団員の区分を基本団員と機能別団員と定め、各区分における活動年齢及び定数を49才未満・456名、50才以上・100名とする。併せて、年額報酬・出動報酬を増額改定し個人支給に変更する。

(2) 池田町消防団

昭和23年	自治体消防として、池田町消防団が発足する。
昭和31年 3月	池田町、会染村が合併したことに伴い両消防団が合併する。
昭和32年 4月	池田町に広津村、陸郷村及び明科町の一部が編入されたことに伴い消防団が合併する。
昭和51年 2月	日本消防協会優良消防団表彰旗を受賞する。
昭和58年 3月	消防庁長官表彰（竿頭綬）を受賞する。
昭和63年 4月	定数を286名とする。
平成 8年 4月	長野県市町村災害時相互応援協定を締結する。
11月	全国池田災害相互支援協定を締結する。
平成 9年 4月	蒲原沢土石流災害に対する功績により、消防庁長官感謝状及び日本消防協会長表彰を受賞する。
平成16年 3月	消防庁長官表彰（表彰旗）を受賞する。
平成19年 4月	女性消防隊（18名）、バイク隊（6名）を編成する。
平成27年 4月	定数を230名とし、現在に至る。
令和 5年 4月	女性隊を廃止し女性班を編成。（女性班は本部分団に所属）
令和 7年 3月	消防庁長官表彰（竿頭綬）を受賞する。

(3) 松川村消防団

昭和22年 7月	松川村消防団設置条例により定数275名で県知事より認可される。
昭和29年 3月	災害救助復旧の功績により、内閣総理大臣表彰を受賞する。
昭和40年12月	定数を230名とする。
平成 8年 4月	長野県市町村災害時相互応援協定を締結する。
平成 9年 2月	日本消防協会優良消防団表彰旗を受賞する。
平成10年 4月	定数を200名とし、現在に至る。
平成11年 9月	大北農業協同組合と「災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定」を締結する。
平成16年 4月	分団を9分団から5分団にする。
平成30年 3月	消防庁長官表彰（表彰旗）を受賞する。

(4) 白馬村消防団

昭和23年	自治体消防として、北城村消防団、神城村消防団がそれぞれ定数390名、270名で発足する。
昭和32年 2月	北城村と神城村が合併したことに伴い白馬村消防団が定数630名で発足する。
昭和56年 2月	日本消防協会優良消防団表彰旗を受賞する。
昭和60年 3月	定数を357名とする。
平成 4年 3月	消防庁長官表彰（竿頭綬）を受賞する。
平成 8年 2月	日本消防協会優良消防団表彰（竿頭綬）を受賞する。
4月	長野県市町村災害時相互応援協定を締結する。
9月	静岡県河津町と「災害時等の相互応援に関する協定」を締結する。
11月	北陸地区治水大会に於いて、水防功労に対する感謝状を受賞する。
平成 9年 4月	蒲原沢土石流災害に対する功績により、消防庁長官感謝状及び日本消防協会長表彰を受賞する。
7月	蒲原沢土石流災害に対する功績により、建設大臣感謝状を受賞する。
平成10年 4月	定数を300名とする。
10月	白馬村郵便局と「災害時における協力に関する覚書」を締結する。
平成11年10月	大北農業協同組合と「災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定」を締結する。
平成12年 4月	(社)大北医師会と「災害時の医療救護活動に関する協定」を締結する。
平成15年 4月	白馬建築業組合・白馬村建設業組合と「災害時における応急対策業務に関する基本協定」を締結する。
平成17年 9月	定数を273名とする。
平成18年 4月	本部分団以外の分団を9分団から南部、中部、北部の3分団にする。
6月	定数を250名とし、現在に至る。
平成23年 3月	消防庁長官表彰(表彰旗)を受賞する。
平成26年10月	和歌山県太地町と「大規模災害時の相互応援に関する協定」を締結する。
平成27年 2月	長野県神城断層地震に対する功績により、消防庁長官表彰（防災功労者表彰）を受賞する。 長野県神城断層地震に対する功績により、長野県知事表彰を受賞する。 長野県神城断層地震に対する功績により、長野県消防協会表彰（知事表彰竿頭綬）を受賞する。
平成27年 7月	富山県朝日町と「大規模災害時の相互応援に関する協定」を締結する。
9月	長野県神城断層地震に対する功績により、内閣総理大臣表彰を受賞する。
平成28年 3月	消防庁長官表彰（地域活動表彰）を受賞する。 長野県神城断層地震に対する功績により、長野放送主催「長野県民の消防員表彰」を受賞する。
令和 2年 7月	長野県旅館ホテル組合会白馬支部と「白馬村災害時における宿泊施設の臨時

避難所使用に関する協定」を締結する。

令和 3年12月 長野県建設業協会大北支部と「大規模災害時における応急対策業務に関する協定」を締結する。

(5) 小谷村消防団

昭和33年 4月 南小谷村、中土村、北小谷村が合併したことに伴い小谷村消防団が定数594名で発足する。

昭和45年 1月 7分団体制にする。

昭和56年 4月 8分団体制にする。

昭和63年 4月 定数を355名とする。

平成 4年 2月 日本消防協会優良消防団表彰旗を受賞する。

平成 8年 4月 長野県市町村災害時相互応援協定を締結する。

7月 集中豪雨災害に対する功績により、消防庁長官表彰を受賞する。

9月 集中豪雨災害に対する功績により、内閣総理大臣表彰を受賞する。

平成 9年 4月 蒲原沢土石流災害に対する功績により、消防庁長官感謝状及び日本消防協会長表彰を受賞する。

7月 蒲原沢土石流災害に対する功績により、建設大臣感謝状及び消防庁長官表彰を受賞する。

9月 蒲原沢土石流災害に対する功績により、内閣総理大臣表彰を受賞する。

平成14年 3月 消防庁長官表彰（竿頭綬）を受賞する。

平成15年 4月 定数を310名とする。

平成17年 4月 定数を290名とする。

平成18年 4月 本部分団以外の分団を8分団から5分団にする。

平成19年 4月 定数を270名とする。

平成24年 2月 静岡県菊川市と「災害時等の相互応援に関する協定」を締結する。

7月 千葉県白子町と「災害時等の相互応援に関する協定」を締結する。

平成25年 5月 定数を280名とする。

平成27年 2月 長野県神城断層地震に対する功績により、消防庁長官表彰（防災功労者表彰）を受賞する。

長野県神城断層地震に対する功績により、長野県知事表彰を受賞する。

長野県神城断層地震に対する功績により、長野県消防協会表彰（知事表彰竿頭綬）を受賞する。

長野県神城断層地震に対する功績により、内閣総理大臣表彰を受賞する。

平成28年 3月 消防庁長官表彰、表彰旗を受賞する。

令和 4年 4月 消防庁発 処遇改善により、出勤・年報酬を個人支給とする。

7月 第64回長野県消防ポンプ操法大会第1部（ポンプ車操法の部）優勝により、消防庁長官、長野県知事及び県消防協会より表彰を受賞する。

9月 定数を240名とする。

令和 6年 9月 定数を220名とする。

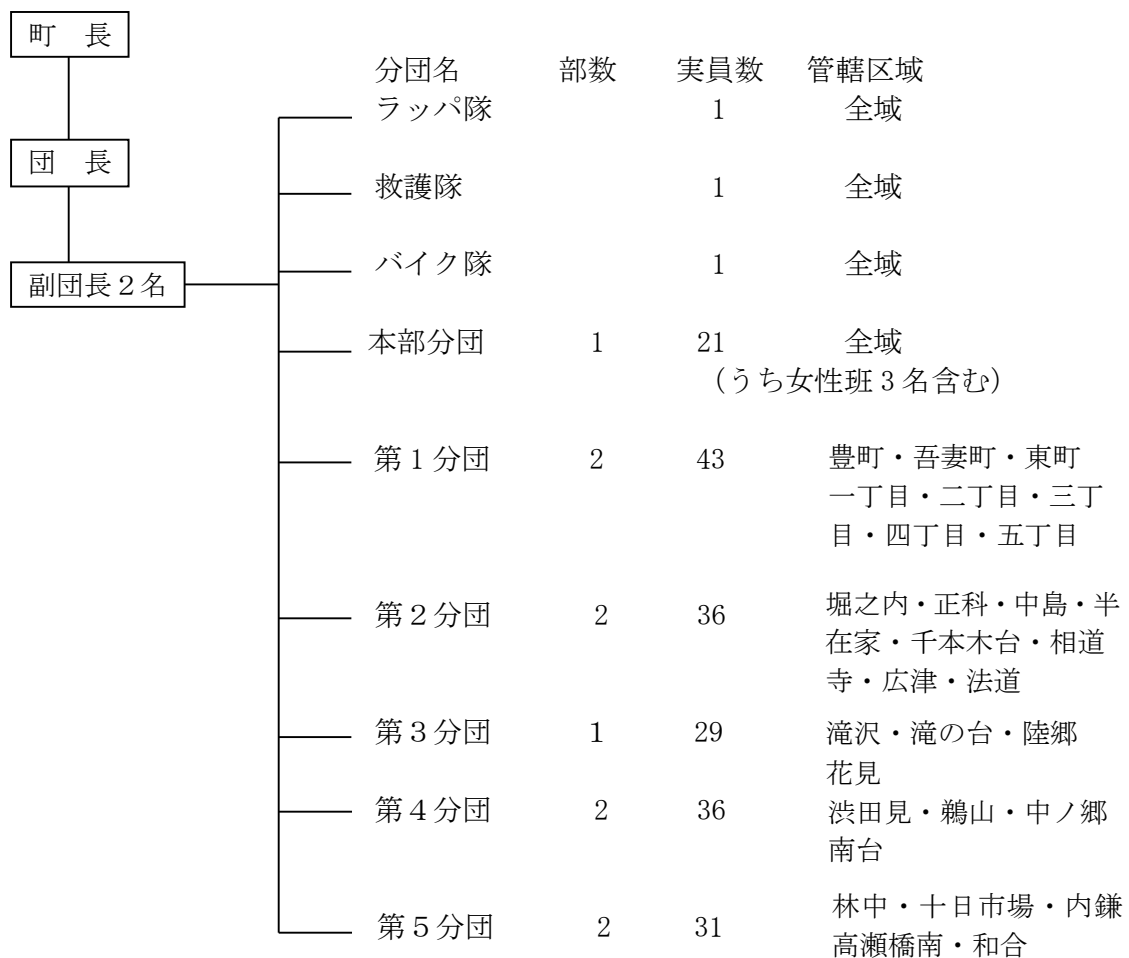
2 組織・機構

(R7. 4. 1現在)

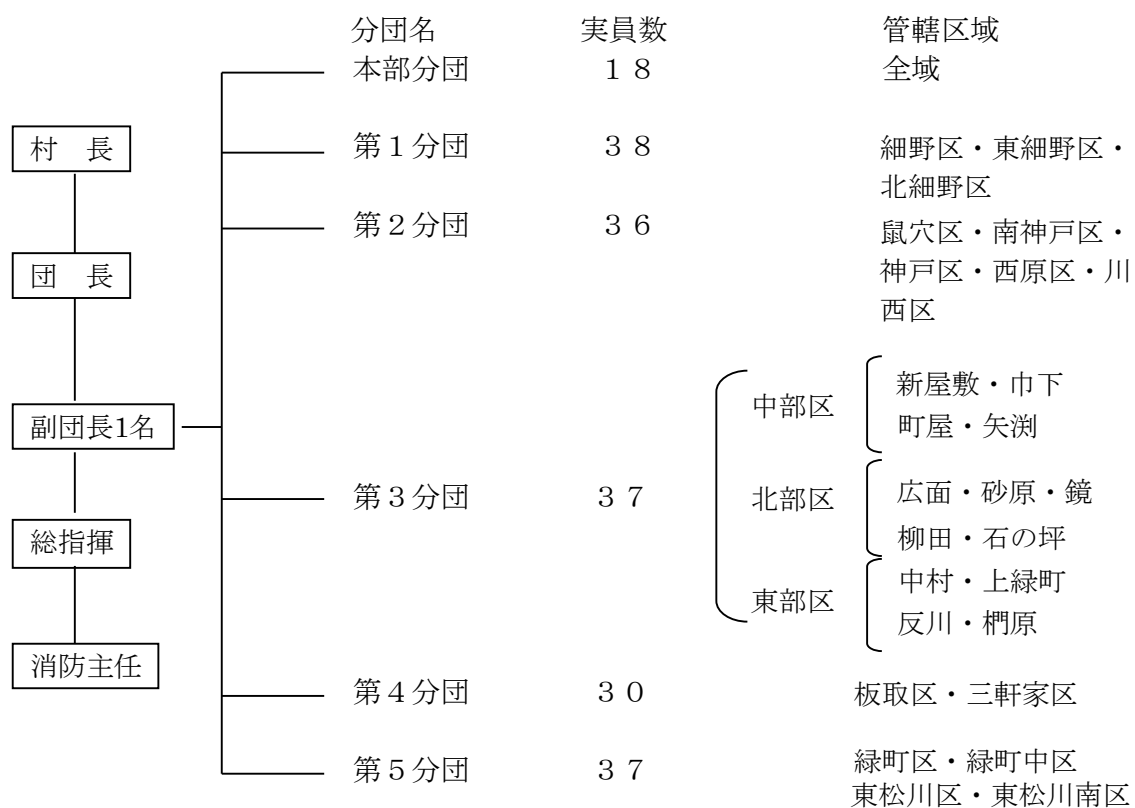
(1) 大町市



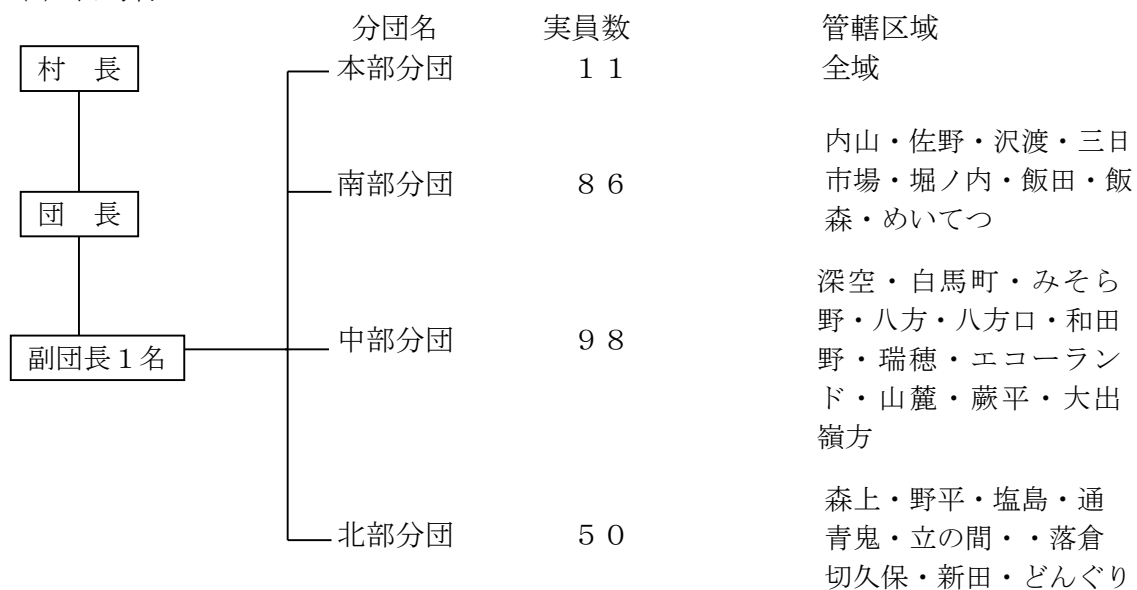
(2) 池田町



(3) 松川村



(4) 白馬村



(5) 小谷村

		分団名	部数	実員数	管轄区域
村 長 団 長 1 名 副団長 2 名		本 部		1 5	全域
		第 1 分団	1	4 0	梅池南・梅池北・川上
		第 2 分団	1	4 1	千国・五区・峯・立屋・若栗 蔵平・里見・馬越
		第 3 分団	2	5 0	土倉・南雨中・黒川・月岡 伊折・北雨中・池ノ平・平間 下里瀬・虫尾・日道・番場 池原下・池原・石坂
		第 4 分団	2	2 9	石原・太田・中通・上手村 曾田・奉納・白岩・黒倉・清 水山・外沢・長崎・瑞穂・中 谷東・中谷西・松本・神久 千沢・高地・真木・田中・大 草連・小谷温泉
		第 5 分団	2	3 0	来馬・下寺・三ヶ村・島・塩 坂・湯原・深原・李平・大網 姫川温泉・戸土

3 階級別配置状況

(R7. 4. 1現在)

区分 市町村	条例 定数	団長	副団長	分団長	副 分団長	部長	班長	団員	合計
大町市	556	1	2	7	7	14	41	385	457
池田町	230	1	2	9	6	16	30	138	202
松川村	200	1	1	7	5	5	23	158	200
白馬村	250	1	1	4	9	9	25	200	249
小谷村	220	1	2	8	6	9	33	149	208

4 年齢別構成

(R7. 4. 1現在)

区分 市町村	団員数	20未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55以上	平均
大町市	457	1	18	34	58	75	101	115	28	27	41.10
池田町	202	0	11	27	20	31	51	42	19	1	39.35
松川村	200	0	12	18	27	43	48	35	17	0	38.72
白馬村	249	0	7	28	26	70	54	58	6	0	38.71
小谷村	208	0	8	19	25	30	39	55	32	0	40.87

5 在職年数別構成

(R7. 4. 1現在)

市町村 \ 年齢区分	団員数	5年未満	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年～24年	25年～29年	30年以上
大 町 市	457	87	79	85	74	88	32	12
池 田 町	202	30	49	28	40	29	21	5
松 川 村	200	29	41	41	36	31	18	4
白 馬 村	249	35	75	57	39	29	14	0
小 谷 村	208	31	39	36	34	27	35	6

6 施設の現況

(R7. 4. 1現在)

市町村 \ 機器施設区分		合 計	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村
車 両	普 通 ポンプ車	25	11	5	3	3	3
	水槽付ポンプ車	0	0	0	0	0	0
	小型ポンプ付積載車	24	24	12	8	14	7
	小型動力ポンプ	19	19	12	8	20	29
置 場	車 庫	83	29	15	5	23	11
	器 具 置 き 場	53	13	18	0	0	22
	水 防 倉 庫	6	1	1	2	1	1
火の見	鉄 製	80	30	0	8	11	31
	木 製	0		0	0	0	0
	ホ ー ス 乾 燥 中	41	26	15	0	0	0

参 考

1 外郭団体等

(1) 大町市防火管理者協議会

昭和42年3月23日、市内事業所、施設関係者任意加入により、初年度65事業所で大町市防火管理者協議会が設立発足した。平成18年1月1日に大町市・八坂村・美麻村の合併により新しい大町市が誕生し現在142事業所が加入している。平成9年4月24日に発足30周年記念式典、平成19年5月21日に発足40周年記念式典及び講演会、平成29年4月25日に発足50周年記念式典及び講演会をそれぞれ開催した。

表彰歴

① 平成20年5月30日に県知事表彰、11月3日に大町市長表彰を受賞した。

② 平成21年7月6日に安全功労者総務大臣表彰を受賞した。

歴代会長	初代	松垣 一夫	(株) 間 組	昭和42年3月	～	昭和44年 3月
	二代	遠藤 直澄	湖 畔 亭	44年4月	～	46年 3月
	三代	五十嵐水卯	(有)五十嵐木材	46年4月	～	50年 3月
	四代	明石 一夫	東 洋 紡 績 (株)	50年3月	～	50年 8月
	五代	岡本 晨也	東 洋 紡 績 (株)	50年8月	～	54年 3月
	六代	植村 正	昭 和 電 工 (株)	54年4月	～	58年 3月
	七代	北山 龍男	昭 和 電 工 (株)	58年4月	～	62年 3月
	八代	栗林 士郎	栗林外科病院	62年4月	～	平成元年 3月
	九代	上田 眞弘	昭 和 電 工 (株)	平成 元年4月	～	3年 3月
	十代	杉山 桂一	昭 和 電 工 (株)	3年4月	～	7年 3月
	十一代	高松 宣芳	昭 和 電 工 (株)	7年4月	～	11年 3月
	十二代	鈴木 英二	昭 和 電 工 (株)	11年4月	～	12年 3月
	十三代	丸田 節雄	昭 和 電 工 (株)	12年4月	～	17年 3月
	十四代	水野 義治	昭 和 電 工 (株)	17年4月	～	20年12月
	十五代	石原 幹司	昭 和 電 工 (株)	21年1月	～	27年12月
	十六代	吉田 義昭	昭 和 電 工 (株)	28年1月	～	30年12月
	十七代	稲田 達也	昭 和 電 工 (株)	31年1月	～	4年12月
※社名変更(株)レゾナック ・ グラファイト・ジャパン				令和 5年1月	～	5年12月
	十八代	井原 栄治	(株)レゾナック ・ グラファイト・ジャパン	令和 6年1月	～	7年 3月
	十九代	稲田 達也	(株)レゾナック ・ グラファイト・ジャパン	令和 7年4月	～	現 職

(2) 白馬小谷防火管理者協議会

昭和62年7月16日、白馬村と小谷村の事業所施設関係者及び防火管理者(主に宿泊施設)の任意加入により、初年度412事業所で設立発足し、現在218事業所が加入している。

平成8年6月15日に発足10周年、平成18年6月2日に発足20周年の記念式典及び講演会、平成23年11月13日に白馬村及び小谷村と共に防災講演会を、平成28年4月20日に発足30周年記念総会を開催した。

表彰歴

① 平成23年11月3日に白馬村及び小谷村で村長表彰を受賞した。

歴代会長	初代	吉沢 育男	民宿仲町	昭和62年7月	～	平成3年3月
	二代	田中 安秋	民宿西仲屋	平成 3年4月	～	12年3月
	三代	松澤 治雄	民宿若松荘	12年4月	～	18年3月
	四代	丸山 高	ロッヂダンフェ	18年4月	～	22年3月
	五代	田中庄左エ門	山八旅館	22年4月	～	26年3月
	六代	淀 頼彰	リゾートインマイ	26年4月	～	28年3月
	七代	田中 宏人	北中屋	28年4月	～	28年8月

八代	丸山 貞治	山楽荘	29年4月	～	令和2年3月
九代	下川 信敏	ユースビラ白馬とおみ	令和 2年4月	～	現 職

(3) 池田松川防火管理者協議会

昭和63年8月23日、池田町と松川村の一般事業所及び町村施設の任意加入により、初年度51事業所で設立発足し、現在89事業所が加入している。

平成10年4月24日に発足10周年記念式典、平成20年5月25日に発足20周年記念講演会及び同年5月29日に記念式典、平成30年4月26日に発足30周年記念総会をそれぞれ開催した。

歴代会長	初代	師岡 昭二	池田町役場	昭和63年8月	～	平成8年3月
	二代	鷲 雅夫	黒田精工(株)	平成 8年4月	～	10年3月
	三代	中山 和一	松澤鉦泉	10年4月	～	12年3月
	四代	田中 敏夫	(有)たなか会館	12年4月	～	14年3月
	五代	横川 洋輔	(株)セコニック	14年4月	～	16年3月
	六代	峰村 佳秀	日本電熱(株)	16年4月	～	18年3月
	七代	中川 真一	安曇総合病院	18年4月	～	25年3月
	八代	畑 幸彦	安曇総合病院	25年4月	～	26年3月
	九代	西澤 理	北アルプス医療センター あづみ病院 (名称変更H27.4.1)	26年4月	～	31年3月
	十代	畑 幸彦	北アルプス医療センター あづみ病院	31年4月	～	令和6年3月
	十一代	松田 正之	北アルプス医療センター あづみ病院	令和6年4月	～	現 職

(4) 大北地区危険物安全協会

昭和35年6月、長野県危険物安全協会連合会大北支部として、給油取扱所及び大口事業所を中心に15事業所が加盟創立した。

現在131事業所となり、危険物取扱いの管理、災害防止等を目的に事業を行っている。

昭和62年北安曇地方事務所から大北広域消防本部に事務移管となり、現在に至っている。平成12年4月21日に発足40周年記念式典、平成22年4月22日に発足50周年記念式典を開催した。令和2年に発足60周年を迎え記念式典を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となる。

表彰歴

① 昭和63年5月 関東甲信越地区危険物安全協会連合会長表彰を受賞した。

② 平成8年6月 (財) 全国危険物安全協会理事長表彰を受賞した。

歴代会長	初代	薄井 修助	(株)薄井商店	昭和35年6月	～	平成5年3月
	二代	今井 努	大北石油(株)	平成 5年4月	～	11年3月
	三代	松澤 宗洋	(有)ベルグハウス	11年4月	～	15年3月
	四代	丸山 賢二	(株)金丸屋商店	15年4月	～	25年3月
	五代	曾根原 幹二	大町シェル石油(株)	25年4月	～	現 職

(5) 幼年消防クラブ

ア 池田町

昭和63年12月21日、池田町内の3保育園において結成発足、平成25年4月1日から2保育園となり現在に至る。南部消防署、池田町消防団がクラブ活動の指導に当たっている。

平成8年11月8日、池田町北保育園幼年消防クラブが(財)日本消防協会から表彰される。

イ 松川村

平成3年4月1日、松川村内の2保育所において結成発足し現在に至る。南部消防署、松川村消防団がクラブ活動の指導に当たっている。

ウ 大町市

平成6年7月1日、大町市内の7保育園において結成発足、現在7保育園、3幼稚園で構成され現在に至る。大町消防署、大町市消防団がクラブ活動の指導に当たっている。

2 歴代消防長等

消防長

氏 名	在 職 期 間	摘 要
縣 聡	S40年4月1日 ～ S53年6月30日	大町市消防本部 消防長事務取扱(市長)
高 橋 恭 男	S53年7月1日 ～ S58年9月30日	
小日向 一男	S58年10月1日 ～ S59年3月31日	消防長職務代理
宮 島 邦 夫	S59年4月1日 ～ S61年3月31日	大北広域消防本部 消防長 (昭和60年4月1日～)
林 功	S61年4月1日 ～ H元年3月31日	
遠 山 則 政	H元年4月1日 ～ H3年3月31日	
松 田 行 雄	H3年4月1日 ～ H6年3月31日	
降 旗 鎮 雄	H6年4月1日 ～ H10年3月31日	
宮 澤 一 弘	H10年4月1日 ～ H12年3月31日	
降旗 礼次郎	H12年4月1日 ～ H13年3月31日	
藤 巻 建 彦	H13年4月1日 ～ H15年3月31日	
丸 山 清 登	H15年4月1日 ～ H17年3月31日	
傘 木 康 裕	H17年4月1日 ～ H19年3月31日	
滝 沢 光 雄	H19年4月1日 ～ H21年3月31日	北アルプス広域消防本部 消防長 (平成8年4月1日～)
唐 木 修	H21年4月1日 ～ H22年3月31日	
松 田 俊 郎	H22年4月1日 ～ H24年3月31日	
栗 林 伸 夫	H24年4月1日 ～ H26年3月31日	
倉 科 孝 志	H26年4月1日 ～ H29年3月31日	
細 川 隆	H29年4月1日 ～ H30年3月31日	
降 旗 寛 次	H30年4月1日 ～ R2年3月31日	
勝 野 一 徳	R2年4月1日 ～ R3年3月31日	
山 本 智 通	R3年4月1日 ～ R4年3月31日	
山 岸 賢 司	R4年4月1日 ～ R5年3月31日	
細 川 彰 夫	R5年4月1日 ～ R6年3月31日	
小 林 鉄 朗	R6年4月1日 ～ R7年3月31日	
宮 坂 明 史	R7年4月1日 ～ 現 在	

消防署長・室長・課長

氏 名	在 職 期 間	摘 要
小日向 重利	S40年4月1日 ～ S42年3月31日	大町市消防署長
種 山 万 森	S42年4月1日 ～ S44年3月31日	〃
小 林 保 孝	S44年4月1日 ～ S45年8月21日	〃
奥 原 光 男	S45年8月22日 ～ S47年3月31日	〃
平 林 章	S47年4月1日 ～ S49年12月31日	〃
相 澤 澄 男	S50年1月1日 ～ S53年3月31日	〃
倉 科 欣 司	S53年4月1日 ～ S54年3月31日	〃
下 坂 宜 一	S54年4月1日 ～ S55年3月31日	〃
西 澤 宗 夫	S55年4月1日 ～ S56年10月19日	〃
松 田 均	S56年10月20日 ～ S57年9月30日	〃

小日向 一男	S57年10月1日 ～ S59年3月31日	大町市消防署長（兼）
宮 島 邦 夫	S59年4月1日 ～ S61年3月31日	大町市消防署長（兼）・大町署長（兼）
降 旗 鎮 雄	S60年4月1日 ～ H6 年3月31日	北部分署長・消防次長（大町署長）
林 功	S61年4月1日 ～ S62年1月 4日	大町署長（兼）
松 田 行 雄	S62年1月5日 ～ H3 年3月31日	南部分署長・南部署長
宮 澤 一 弘	S62年1月5日 ～ H10年3月31日	北部分署長・総務課長・南部署長・北部署長・消防次長（大町署長）
竹 折 和 人	H元年4月1日 ～ H6 年3月31日	北部署長・南部署長
川 上 治 作	H6 年4月1日 ～ H10年3月31日	南部署長・北部署長
降旗 礼次郎	H6 年4月1日 ～ H12年3月31日	北部署長・南部署長・消防次長（大町署長）
遠 藤 晟	H10年4月1日 ～ H13年3月31日	北部署長・消防次長（大町署長）
藤 巻 建 彦	H10年4月1日 ～ H13年3月31日	南部署長・北部署長
丸 山 清 登	H10年4月1日 ～ H15年3月30日	総務課長・南部署長・消防次長（大町署長）
傘 木 康 裕	H13年4月1日 ～ H17年3月31日	北部署長・消防次長（大町署長）
勝 野 忠 次	H13年4月1日 ～ H19年3月31日	南部署長・北部署長・消防次長（大町署長）
西 澤 利 明	H15年4月1日 ～ H19年3月31日	南部署長・北部署長
西 沢 宏	H15年4月1日 ～ H19年3月31日	総務課長・南部署長
滝 沢 光 雄	H17年4月1日 ～ H19年3月31日	総務課長
唐 木 修	H19年4月1日 ～ H21年3月31日	消防次長（大町署長）
丸 山 明 廣	H19年4月1日 ～ H22年3月31日	北部署長・消防次長（大町署長）
松 田 俊 郎	H19年4月1日 ～ H22年3月31日	総務課長・北部署長
奥 原 一 繁	H19年4月1日 ～ H24年3月31日	南部署長・北部署長
栗 林 伸 夫	H22年4月1日 ～ H24年3月31日	総務課長
伊 藤 和 實	H22年4月1日 ～ H26年3月31日	大町署長・北部署長
長 崎 喜 治	H23年4月1日 ～ H28年3月31日	南部署長・大町署長・北部署長
倉 科 孝 志	H24年4月1日 ～ H26年3月31日	総務課長
服 部 守	H24年4月1日 ～ H29年3月31日	南部署長・大町署長・消防次長（大町署長）
佐 藤 静 雄	H26年2月1日 ～ H29年3月31日	通信指令室長・南部署長
細 川 隆	H26年4月1日 ～ H29年3月31日	総務課長
相 沢 進	H26年4月1日 ～ H30年3月31日	南部署長・北部署長・消防次長（大町署長）
西 沢 守	H28年4月1日 ～ H31年3月31日	通信指令室長
降 旗 寛 次	H29年4月1日 ～ H30年3月31日	総務課長
栗 林 宏 治	H29年4月1日 ～ R2 年3月31日	南部署長
高 橋 重 信	H29年4月1日 ～ R2 年3月31日	北部署長・大町署長
勝 野 一 徳	H30年4月1日 ～ R2 年3月31日	総務課長・通信指令室長（兼）
原 徳 則	H30年4月1日 ～ R3 年3月31日	北部署長・消防次長（大町署長）
武 田 和 男	H31年4月1日 ～ R4 年3月31日	通信指令室長・北部署長・消防次長（大町署長）
西 澤 健 二	R2 年4月1日 ～ R3 年3月31日	南部署長
山 本 智 通	R2 年4月1日 ～ R3 年3月31日	総務課長
郷 津 純 治	R2 年4月1日 ～ R5 年3月31日	通信指令室長・消防次長（通信指令室長）
山 岸 賢 司	R3 年4月1日 ～ R4 年3月31日	総務課長
矢 口 伸	R3 年4月1日 ～ R5 年3月31日	南部署長・大町署長

勝 野 正 巳	R 3 年4月1日 ～ R 5 年3月31日	北部署長
細 川 彰 夫	R 4 年4月1日 ～ R 5 年3月31日	総務課長
山 本 辰 雄	R 4 年4月1日 ～ R 6 年3月31日	南部署長・消防次長（通信指令室長）
小 林 鉄 朗	R 5 年4月1日 ～ R 6 年3月31日	総務課長
黒 雲 孝	R 5 年4月1日 ～ R 7 年3月31日	大町署長・消防次長（大町署長）
降 籬 昭 彦	R 5 年4月1日 ～ R 7 年3月31日	北部署長・南部署長
北 村 典 司	R 5 年4月1日 ～ R 7 年3月31日	南部署長・北部署長
宮 坂 明 史	R 6 年4月1日 ～ R 7 年3月31日	総務課長
戸 谷 芳 樹	R 6 年4月1日 ～ 現 在	通信指令室長
西 山 賢 一	R 7 年4月1日 ～ 現 在	消防次長（大町署長）
鳥 羽 健 一	R 7 年4月1日 ～ 現 在	南部署長
荒 山 哲 也	R 7 年4月1日 ～ 現 在	北部署長
横 川 和 彦	R 7 年4月1日 ～ 現 在	総務課長

消 防 年 報 令和 7 年版

令和 7 年 7 月 発行

編集
発行 北アルプス広域消防本部

〒398-0002 長野県大町市大町 4724 番地 1
TEL 0261 (22) 0166
FAX 0261 (21) 3310
